

ECEQ[®] コーディネーター
テキストブック & マニュアル

ECEQ[®] Coordinator Textbook & Manual



ECEQ® コーディネーター養成講座の教材である ECEQ® コーディネーターテキスト & マニュアル、および映像教材は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した令和4年度幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究の一環で制作したものです。したがって、講座映像の録音、写真撮影、動画撮影、第三者への URL の共有や貸与、SNS を含む他の媒体への転載は固くお断りします。また講座テキストデータの複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

ECEQ® コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ®Coordinator TextBook & Manual



第1章 ECEQ®とは

- 1-1 ECEQ®とは
- 1-2 ECEQ®の特長
- 1-3 ECEQ®のロゴマーク
- 1-4 ECEQ®の目的
- 1-5 ECEQ®のポリシー
- 1-6 5STEP プロセス
- 1-7 学校評価における ECEQ®

第2章 ECEQ® コーディネーターとは

- 2-1 ECEQ® コーディネーターとは
- 2-2 ECEQ® コーディネーターの使命
- 2-3 ECEQ® コーディネーターの役割
- 2-4 ECEQ® コーディネーターに求められる知識とスキル
- 2-5 ECEQ® コーディネーターに求められるファシリテーションについての理解
- 2-6 メイン ECEQ® コーディネーターとサブ ECEQ® コーディネーター

第3章 ECEQ®の実施

- 3-1 ECEQ® 申請前相談
- 3-2 ECEQ® 申請受付
- 3-3 STEP1 事前訪問
- 3-4 STEP2 事前研修とは
- 3-5 STEP3「問い」づくりと公開保育の準備
- 3-6 STEP4 公開保育の準備
- 3-7 STEP4 公開保育
- 3-8 STEP5 事後研修とは

第4章 実施園記録と ECEQ® コーディネーター報告書

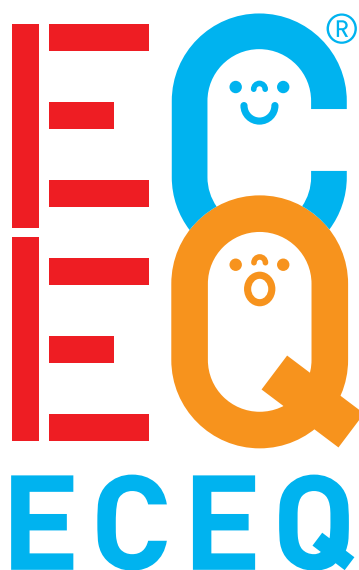
- 4-1 実施園記録と ECEQ® コーディネーター報告書
- 4-2 実施園記録の書き方
- 4-3 ECEQ® コーディネーター報告書の書き方
- 4-4 ECEQ® の完了

ECEQ® コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ® Coordinator TextBook & Manual

第1章 ECEQ® とは

1-1	ECEQ® とは	2
1-2	ECEQ® の特長	3
1-3	ECEQ® のロゴマーク	4
1-4	ECEQ® の目的	5
1-5	ECEQ® のポリシー	6
1-6	5STEP プロセス	7
1-7	学校評価における ECEQ®	10



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第1章 ECEQ[®] とは

1-1 イーセック ECEQ[®] とは

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した 「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」

イーセック ECEQ[®] (Early Childhood Education Quality System.) は、幼稚園等が公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の教育実践の質向上につなげていく学校評価実施支援システムとして誕生しました。システムの核は公開保育です。ふだんどりの保育実践を他園の保育者等が見学し、ECEQ[®] 実施園の保育者と意見交換することによって、自分たちだけでは分からなかった自園の良さや課題を見つけることができます。また、その過程において、園内のコミュニケーションが活性化し、同僚性を高める手法も学ぶことができます。

ECEQ[®] は、この一連の質向上システムを全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、当機構）が認定した ECEQ[®] コーディネーターが初めから終わりまでサポートするため、公開保育をしたことがない園でも安心して実施できます。



▲ ECEQ[®]STEP4 公開保育の様子

1-2 ^{イーセック}ECEQ[®]の特長

^{ステップ}5STEP プロセスと ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーター

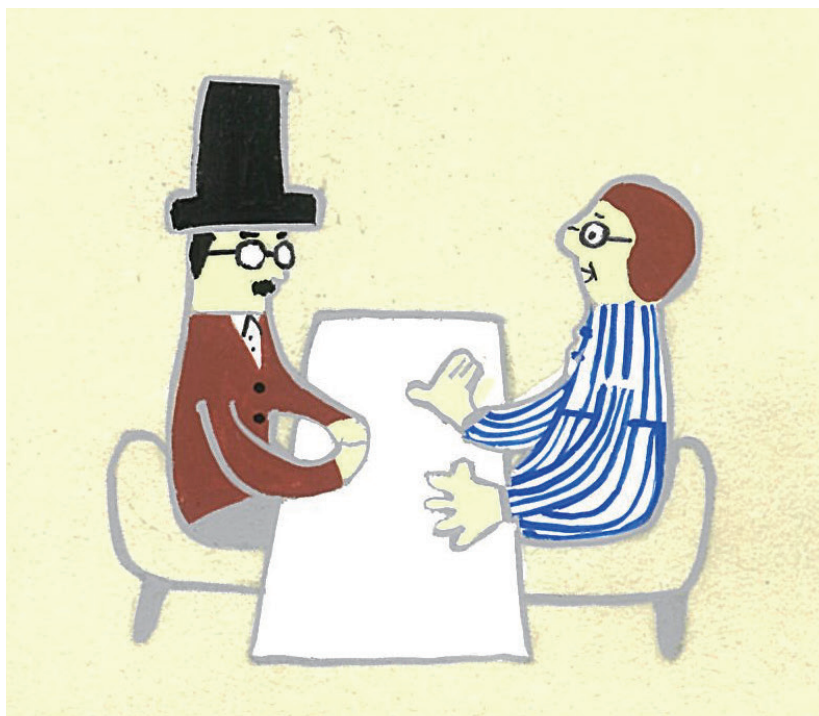
ECEQ[®] は、次の2つの特長によって、保育者が主体的に子どもをまんやかにした質の高い幼児教育をつくり上げていくための園の風土を醸成していきます。

特長1 5STEP プロセス

公開保育当日だけではなく、STEP 1からSTEP 5 までの一連の取組みを行いながら、園全体で自園の保育実践の評価・改善を進めます。

特長2 ECEQ[®] コーディネーター

STEP 1からSTEP 5までの一連の取組みに、当機構認定の ECEQ[®] コーディネーターが関わり、支援を行います。



1-3 イーセック ECEQ[®] のロゴマーク

子どもの成長を願って

ECEQ[®] のロゴマークは、ECEQ[®] の「E」を縦積みにして身長計の目盛りに見立て、「C」は幼児、「Q」は乳児を表し、子どもが成長していく姿を表現しています。また、目盛りのイメージは ECEQ[®] が「評価スケール」の意味をもつことも示唆しています。C の右肩にある[®] は登録商標の印です。

文字のイメージ E…身長計の目盛り、「評価スケール」

C…幼児

Q…乳児

E + C + Q…子どもの成長

[®]…登録商標の印

色のイメージ 赤色…命の源やエネルギー、たくましさ

水色…知性、思いやり、安定、平和

オレンジ色…情緒、親しみ、コミュニケーション

図表 1-1 : ECEQ[®] のロゴマーク



1-4 イーセック ECEQ[®] の目的

幼児教育の質向上のために

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、小学校以上の教科学習とは異なり、環境を通じた教育が行われることは幼稚園教育要領等に示されているとおりです。人間の基礎教育である幼児教育に投資することが重要なことも、世界的な認識となり、幼児教育は OECD（経済協力開発機構）も注目している分野です。同時に幼児教育の質が問われることとなり、各国では多様な評価スケールが開発される等、質向上に向けて様々な取組みが行われています。

公的な教育を担う私立幼稚園等としては、独自性を失わずかつ独善に陥らないために学校評価に積極的に取り組む必要がありますが、現状としては学校評価の中でも最も重要な自己評価がうまく機能せず、園としての課題が明確になっていない園も多く見受けられます。

そのため、当機構は平成 20 年度より学校関係者評価を支援するための研究を続け、幼稚園等が公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の教育実践の質向上につなげていく学校評価実施支援システム「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」の開発を進めてきました。平成 29 年度からは「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」Early Childhood Education Quality System. の頭文字をとって ECEQ[®]（イーセック）と名付け、この取組みの更なる普及を目指しています。

ECEQ[®]に取り組むことで公開保育を実施し、外部からの参加者と共に保育を語り合うことによって、これまで自分たちには見えなかった新たな視点が参加者からもたらされることにより、環境の再構成やカリキュラムの見直し等へつながるのです。園内に幼児教育の質を高めるための新しい風を吹き込ませることができる、これが ECEQ[®] です。

目的1 公開保育を実施し外部の視点を導入することによって、より多面的で多角的な評価・改善を行う

目的2 園として学校評価を持続的に実施し、幼児教育の質を向上し続けていくための組織風土をつくり上げていく

1-5 イーセック ECEQ[®] のポリシー

イーセック ECEQ[®] が約束する3つのポリシー

ECEQ[®] は、次の3つのポリシーを、実施園に約束します。

ポリシー1 実施園がまんなか

…ECEQ[®] を実施した園が「やってよかった」と思えるために

ECEQ[®] は、実施園のナビゲーターとなる ECEQ[®] コーディネーターが進行を支援することが特長です。ECEQ[®] コーディネーターは実施園に寄り添い、ワークや対話を通して実施園が自園の良さや課題を見つけることができるよう手伝います。実施園に必ず実りがあるように、ECEQ[®] 全体をコーディネートするのが ECEQ[®] コーディネーターの役割です。

ポリシー2 5STEP プロセス

…5STEP を通して園との対話を丁寧に

ECEQ[®] は次の5段階で進めます。

- STEP 1 理事長・園長・副園長・教頭・主任（以下、トップリーダー）から
園運営についての聴き取り
- STEP 2 実施園の保育者等から園の現状のヒアリングと、現在位置を知るワークの
実施
- STEP 3 公開保育で参加者に見てもらいたい視点をつくる「問い」づくりと、
STEP 4 の準備
- STEP 4 保育の公開と参加者との語り合い
- STEP 5 STEP 4までの振り返り

これらすべての段階を、実施園と ECEQ[®] コーディネーターとの協働作業で進めます

ポリシー3 体験からの気づき・学び 学びあい、育ちあい

…「指導」「助言」ではなく「ともに学ぶ」関係性

助言者に教を乞う教授型ではなく、実施園と ECEQ[®] コーディネーターがともに学び合い、育ち合う「参加者主体」の学びを実施します。STEP 4においては、現場の保育者同士が意見を交わし合うことで、実施園はもとより、見学した参加者自身にも気づきや学びが生まれます。

1-6 ^{ステップ}5STEP プロセス

幼児教育の質向上を支援する ^{イーセック} ^{ステップ} ECEQ[®] 5STEP プロセス

5STEP プロセスは ECEQ[®] の特長の一つです。実施園は STEP1 から STEP5 までを、ECEQ[®] コーディネーターと共に丁寧に進めることで、対話と内省を深めていきます。

STEP 1 事前訪問

ECEQ[®] コーディネーターが複数人で実施園を訪問します。トップリーダーに ECEQ[®] の概要を説明し、ECEQ[®] を正しく理解してもらうことから始めます。次に、実施園の建学の精神や園の歴史、教育理念や教育目標、これまでの学校評価への取組み等、園運営に対しトップリーダーが抱く現状と課題、ならびに ECEQ[®] に期待すること等の聴き取りを行います。

トップリーダーとは

トップリーダーとは、園全体のマネジメントに責任を持つ人のことです。具体的には、理事長、園長、副園長、教頭、主任といった肩書きだけでなく、保育者をマネジメントする立ち位置で経営的な視点をもって園の方向性を定めたり人事に携わったりする人を指します。園が幼児教育の質向上を目指すとき、ECEQ[®] コーディネーターが保育者等とトップリーダーとの思考や見方、目標等がどの程度同じか、あるいは異なる点があるかを知っておくことは、実施園に関わる際にはとても重要です。

STEP 2 事前研修

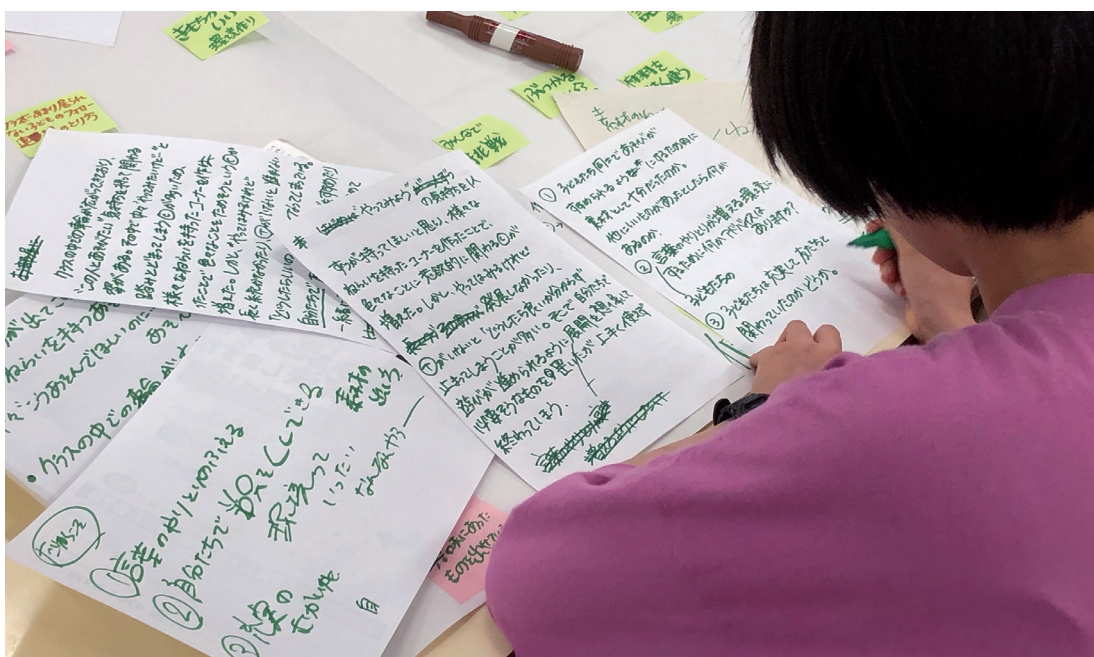
ECEQ[®] コーディネーターが、実施園の保育者等に対してECEQ[®]を説明し、ECEQ[®] コーディネーターの進行によるワークを通して、保育者自身が考える園の現状と課題を明らかにしていきます。自園の良さと課題を自覚することが、質向上への第一歩です。



▲ワークの様子

STEP 3 公開保育に向けての準備

事前研修で明らかになった自園の良さや課題を基に、公開保育当日に参加者と共有したい視点を「問い」として示すことができるように「問い」づくりをし、公開保育参加者を迎える準備をします。



▲「問い」を考える実施園の保育者

STEP 4 公開保育

参加者に対してオリエンテーションを行い、ECEQ[®]の概要説明や時程、諸連絡等を行います。保育見学後は分科会を行い、参加者と「問い」を通じて対話を重ねます。各分科会の内容を全体会にて全員で共有することにより、参加者も共に学びを深めていきます。



▲分科会で語り合うファシリテーター、実施園の保育者、参加者

STEP 5 事後研修

公開保育時に参加者から得た意見や感想等を参考に、振り返りの研修を行います。外部からの視点を基に改めて自園の良さと課題を再確認し、良さとしてさらに伸ばしていきたい点や、取り組むべき課題を明確にして、実施園の保育の改善につなげます。



▲ECEQ[®] コーディネーターと公開保育を振り返る実施園の保育者

1-7 学校評価における ECEQ[®]

学校評価実施支援システムとして 開発された ECEQ[®]

ECEQ[®] は、「評価スケール」として活用できます。

(1) 自己評価及び学校関係者評価の実効性を高める ECEQ[®]

学校評価は、組織的・継続的に教育の改善を図り、保護者や地域社会からの理解と参画を得ながら、園づくりを進めることが目的です。ECEQ[®] の5STEP には、学校評価を促す手法が組み込まれています。

(2) 自己評価の観点

STEP 1・2 自園の良さと課題を明らかにし、園全体で共有

STEP 3 課題を意識しながら教育実践を行い、その過程で気づいた疑問や参加者と共に語り合いたい内容を「問い」として表現

STEP 4 「問い」を通じて公開保育参加者との語り合い

STEP 5 公開保育の際に参加者から得た意見や感想を基に、自園の良さや課題を再確認し、課題解決へ向けて環境の再構成やカリキュラムの見直し等を実施して、自己評価につなげる

(3) 学校関係者評価の観点

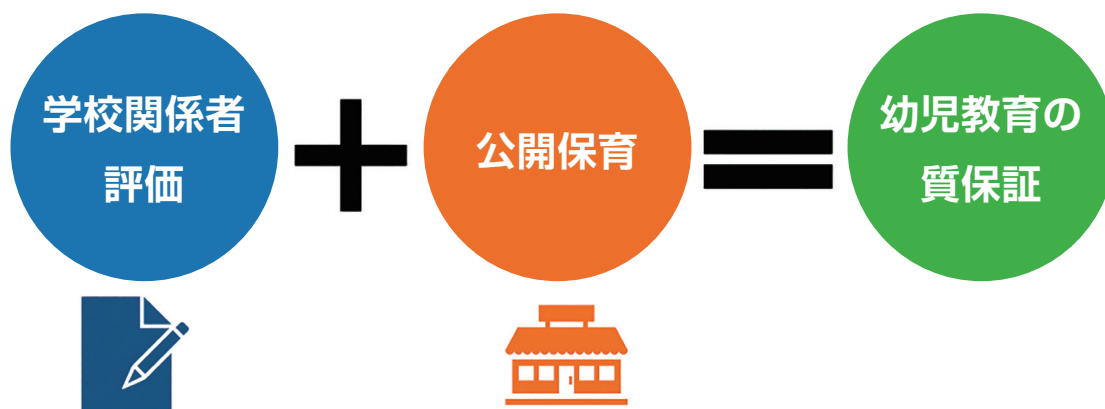
STEP 4公開保育では、参加者として外部の視点が入り、「問い」を通じて参加者と課題を共有しながら多様な意見をもらうことができます。

公開保育の参加者は、他の幼稚園等の保育者等が中心となりますが、その他小学校の教員や地域の幼児関連施設の従事者、行政担当者、学校関係者評価委員（施設関係者評価委員）、保護者の代表者、地域の代表者等、幅広く考えることができます。

特に学校関係者評価委員に自己評価の結果を適切に評価してもらうためには、園のことをよく理解してもらう必要がありますので、学校関係者評価委員のECEQ[®]公開保育への参加はとても意味のあることです。

図表 1-2：高まる学校関係者評価の重要性

2019年 幼児教育の無償化が開始
学校関係者評価の重要性が高まる



まとめ

「やってよかった ECEQ[®] !」 ～対話と内省を深めながら～

☐ ECEQ[®] とは？

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した
「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」

☐ ECEQ[®] の特長とは？

5STEP と ECEQ[®] コーディネーター

☐ ECEQ[®] の目的とは？

幼児教育の質向上とそのための組織風土の醸成

☐ ECEQ[®] の3つのポリシーとは？

- (1) 実施園がまんなか
- (2) 5STEP プロセス
- (3) 体験からの気づき・学び 学びあい、育ちあい

☐ ECEQ[®] =学校評価？

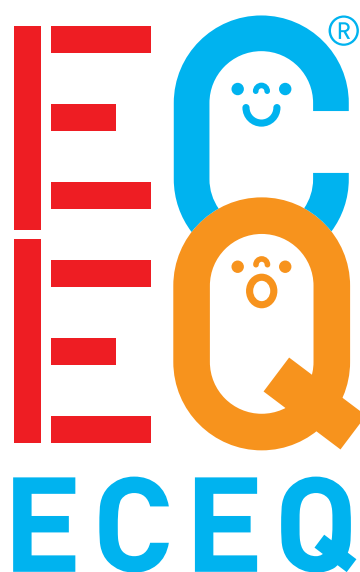
学校評価を支援するシステムとして開発された ECEQ[®] は、
自己評価及び学校関係者評価の実効性を高めるシステム

ECEQ[®] コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ[®] Coordinator TextBook & Manual

第2章 ECEQ[®] コーディネーターとは

2-1	ECEQ [®] コーディネーターとは	14
2-2	ECEQ [®] コーディネーターの使命	15
2-3	ECEQ [®] コーディネーターの役割	16
2-4	ECEQ [®] コーディネーターに 求められる知識とスキル	18
2-5	ECEQ [®] コーディネーターに 求められるファシリテーションに ついての理解	19
2-6	メイン ECEQ [®] コーディネーター とサブ ECEQ [®] コーディネーター	24



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第2章 ECEQ® コーディネーターとは

2-1 ^{イーセック}ECEQ® コーディネーターとは

^{イーセック}ECEQ® の旅をナビゲートしてくれる ^{イーセック}ECEQ® コーディネーター資格をもった頼もしい「仲間」

実施園が「やってよかった」と思えるように、ECEQ® 全体をナビゲートする専門スタッフが ECEQ® コーディネーターです。ECEQ® コーディネーターは、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の養成講座を修了して認定を受けた、幼児教育の理論と実践を理解しファシリテーションのスキルを持った専門家です。

ECEQ® 全体をコーディネートしながら、STEP 毎に、実施園の保育者たちの話し合いを深めたり、課題を整理する手伝いをしたり、STEP 4では実施園と参加者との対話を促したりします。

評価や指導をする立場では決してなく、ECEQ® が実りあるものになるように、実施園の側に立つ頼れる「仲間」が ECEQ® コーディネーターです。



2-2 イーセック ECEQ® コーディネーターの使命

すべては実施園の「やってよかった」のために

後述する ECEQ® コーディネーターの役割と支援は、実施園の気持ちが「やってよかった ECEQ®」となることを目的としています。実施園の保育者が、同僚との関係性に支えられる中で意欲的に園の課題を解決し、幼児教育の質向上を目指す園の風土の醸成に寄与することが、ECEQ® コーディネーターの使命です。ECEQ® コーディネーターは、指導者・助言者・評価者ではなく、質向上のためのナビゲーターとして実施園の ECEQ® を支援していきます。

ECEQ® コーディネーターの支援内容

- ・実施園が、良さや課題を自ら見つけ出す支援
- ・主体的な話し合いの場づくりの支援
- ・実りある公開保育となるような「問い」づくりの支援
- ・ECEQ® 終了後も、会議や園内研修が主体的にできるようになる支援



▲ STEP2 で実施園の現在位置を共有する参加型研修を行うメイン ECEQ® コーディネーター

2-3 イーセック ECEQ[®] コーディネーターの役割

何をコーディネートするのか

ECEQ[®] コーディネーターは、実施園が安心かつ主体的に ECEQ[®] に取り組めるよう、ナビゲーターとして ECEQ[®] 全体をコーディネートします。その役割は、大きく分けると2つあります。

1つ目は ECEQ[®] 実施に際しての都道府県私立幼稚園団体や関係機関等との連絡調整、2つ目は ECEQ[®] の各 STEP のスムーズかつ有意義な進行のための実施園支援です。

役割1 ECEQ[®] 実施に際しての都道府県私立幼稚園団体や関係機関等との連絡調整

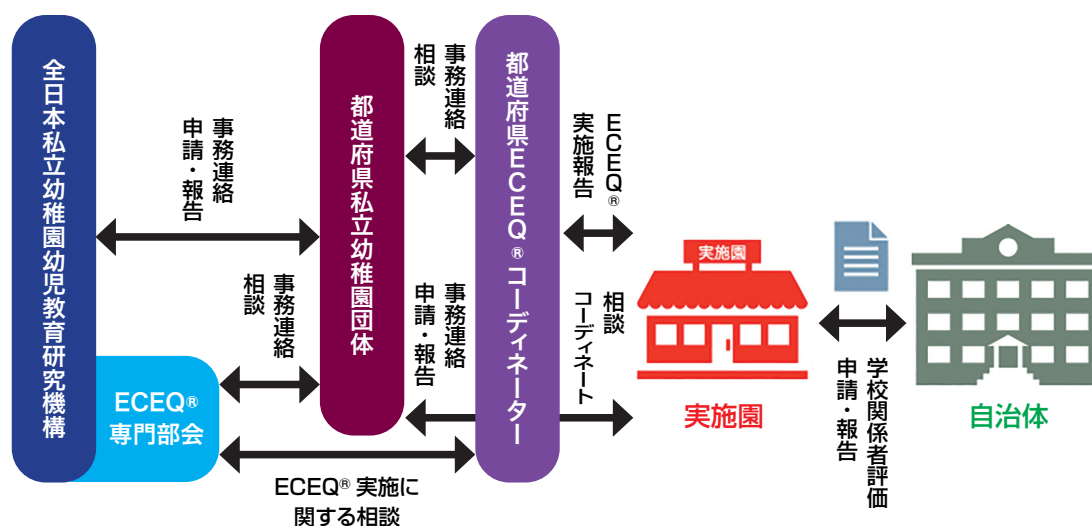
役割2 各 STEP のスムーズかつ有意義な進行のための実施園支援

(1) 関係機関等との連携

ECEQ[®] の実務は、都道府県私立幼稚園団体が窓口となります。団体は実施園からの ECEQ[®] の実施申請の受付から、STEP 4の実施手続き等の事務的作業を担います。ECEQ[®] コーディネーターが ECEQ[®] の全 STEP を主となってコーディネートする際には、都道府県私立幼稚園団体の窓口と連絡を取り、情報を共有しておくことが重要です。

また、STEP 4公開保育を学校関係者評価として行うために、実施園が市町村の保育関係部署や教育委員会と連携したり地域や保護者の理解を促したりするための支援を行うこともあります。

図表 2-1：関係機関等との連携のイメージ



(2) 実施園支援

ECEQ[®]を初めて実施する園は、各都道府県私立幼稚園団体へ実施希望の連絡をすることから始めます。その際に ECEQ[®] の概要等、事前の相談があれば、実施園が所在する都道府県の ECEQ[®] コーディネーターに相談します。

実施園が意向を固め申請書を提出し実施が決まれば、ECEQ[®] の STEP がスタートします。担当する ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1から STEP 5、その後の実施園記録提出まで、実施園が安心して主体的に ECEQ[®] に取り組むことができるよう、親身になって支援します。その過程で ECEQ[®] コーディネーターとしての迷いや相談事があれば、気軽に地区の＊ECEQ[®] 専門部会員に連絡しましょう。ECEQ[®] 専門部会員は ECEQ[®] コーディネーター皆さんの頼りになる存在です。

＊ECEQ[®] 専門部会員…全日本私立幼稚園幼児教育研究機構は、令和3年度に ECEQ[®] の運営や調査・研究を担う ECEQ[®] 専門部会を立ち上げ、北海道から九州までの全国 11 地区に ECEQ[®] 専門部会員を配置しました。各都道府県私立幼稚園団体の ECEQ[®] の窓口となる担当者や ECEQ[®] コーディネーターが、ECEQ[®] についての質問や相談があれば、最初の連絡先となるのが ECEQ[®] 専門部会員です。そのため、ECEQ[®] コーディネーターが、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構と直接連絡をとることはありません。

2-4 ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターに求められる 知識とスキル

幼児教育 + ファシリテーション ^{イーセック} = ECEQ[®] コーディネーター

ECEQ[®]を通じて、保育の質向上を目指す実施園をナビゲートしていく ECEQ[®] コーディネーターには、大きく分けて2つの知識とスキルが求められます。

知識とスキル1…幼児教育についての理解

知識とスキル2…ファシリテーションについての理解

(1) 幼児教育についての理解の具体的内容

- ・幼稚園教育要領等
- ・教育課程、指導計画等への理解
- ・子ども理解
- ・研修、研究
- ・園マネジメント

(2) ファシリテーションについての理解の具体的内容

- ・話し合いを活性化させる役割とその有効性
- ・ワークおよび対話の手法
- ・課題の明確化や共有化の支援

2-5 ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターに求められる ファシリテーションについての理解

ファシリテーションとは

(1) なぜファシリテーション？

ECEQ[®] コーディネーターは、ECEQ[®] の全STEPを実施園との対話を通して進めます。実施園に信頼され、良好な関係性を紡ぐためにECEQ[®] コーディネーターが身につけておかなければならない大切な対話のスキルがファシリテーションです。



ファシリテーターとは？

辞書などに書かれている「ファシリテート」の原意は「容易にする」「促進する」「円滑にする」「支援する」などです。しかし、それだけでは何を容易にし、何を促進するのかが不明瞭です。「ファシリテート」を端的に説明すると、「**目的のために関係をつなぐ対話（コミュニケーション）のスキル**」になるでしょう。問題解決や合意形成を目的とした場で人と人、人と課題、課題と課題をつなげる対話の場で生きるスキルを「ファシリテーション」といい、ECEQ[®]STEP4の分科会において、その役割を担う人のことを「**ファシリテーター**」と呼びます。ECEQ[®] コーディネーターの一つの側面といえます。

ファシリテーションとは、つまり、**問題解決や合意形成のために、当事者同士の対話を促進したりコミュニケーションを円滑にしたりして、当事者が自ら納得できる成果や答えを見出したり、当事者が気づきや成長を促進させるプロセスに働きかけるスキル**です。会議や参加型研修、体験学習などの学びの場、そして、さまざまな人間関係が織りなす場など、多様な価値観を持った人がコミュニケーションする機会において、ファシリテーターの重要性がますます高まっています。

(2) ファシリテーターのふるまい・構え

ECEQ[®] コーディネーターがファシリテーションをする上で大切にしたいことは、**a 実施園中心**、**b ともにある**、**c 非評価**、**d 非操作** という4つのふるまい・構えです。

a 実施園中心 ⇔ × 教授者中心

質向上のための課題発見や問題解決を行うのは、あくまでも実施園の保育者です。ECEQ[®] コーディネーターは、保育者たちが自分たちの中にある答えを見つけ出せるような手伝いに徹することが大切です。自身の保育観に根ざした知識やスキルを一方的に披露しアドバイスしたりするのではなく、気づきを促すような問いかけをすることがふさわしいふるまいです。実施園の保育者と主体的・対話的に、「いまここ」の体験から学ぶ構えが ECEQ[®] コーディネーターにも求められます。

POINT

- ・体験から学ぶ
- ・主体的
- ・対話的
- ・参加型

b ともにある ⇔ × 対関係的

ECEQ[®] コーディネーターは、「教える者」ではなく「共に学ぶ存在」として、実施園との信頼関係を築くことが重要です。そのために大切な心がけは、実施園のことを「わかりたい」と思う気持ちです。ECEQ[®] コーディネーターがオープンマインド(ほどよい自己開示と寛容さ)に実施園と接し、共感し合える関係性を築けるようなふるまいを心がけることが大切です。

POINT

- ・信頼関係
- ・わかりたいと思う気持ち
- ・共感的な存在
- ・オープンマインド



c 非評価 ⇔ × 評価的

「正しい／間違っている」「善い／悪い」という判断で物事を見ない構えが、実施園の保育者の心理的安全性につながります。実施園の成長を願いながら、善し悪しを評価せずに、あるがままを受け止めます。

特に保育内容（の質）やチームの状態等、実施園の本質的な部分を問い質したり詰問したりするようなことはあってはなりません。理解できなかったことを確認するために「なぜ」と尋ねる場合も、タイミングや言い方によっては相手に不快感を与えることにもなります。非評価であろうとする構えは、「先生」という立場の人には案外難しいふるまいなのかもしれません。

自分のふるまいを俯瞰的に観る眼を養うことも ECEQ[®] コーディネーターにとって大事なレッスンです。実施園のすべてをあるがままに受け入れ、自分自身の保育観は一旦脇に置き、常に実施園が主体的に保育の質向上を目指せるように支援しましょう。

「批判や評価をされず自園のことを尊重してもらえている」、そんな実感から実施園の心理的安全性を得られ、各 STEP での対話がスムーズに進むでしょう。

POINT

- ・あるがまま
- ・心理的安全性
- ・受容的

d 非操作 ⇔ × 操作的

ECEQ[®] コーディネーターは、実施園の保育者が自分たちの中にある「答え」を導き出していくプロセスを支援します。課題や問題に接したときに、ECEQ[®] コーディネーターが考える答えに実施園を誘導するように操作するのではなく、実施園が答えを探し出そうとすると、道に迷わないように現在位置を確認したり選択肢を可視化したりしながらナビゲートするのが役割です。

どんな答えを見つけ出すかは問題ではありません。見つけ出した答えに ECEQ[®] コーディネーターとして合意できなかったとしても、それを操作しようとするのではなく、実施園の保育者たちがどのように考えているのかを十分に話し合えるように関わります。たとえば、あなたが ECEQ[®] コーディネーターとして STEP3 で「問い」づくりに関わった際、実施園が立てた「問い」が幼稚園教育要領等からずれているように感じ共感できなかったとき、操作的に介入したくなるかもしれません。そんなときにも、「問い」を立てた理由をじっくりと共感的に聴くことを大切にしてください。そして、STEP4 で参加者から多様なフィードバックを得られることに期待する（オープンエンド）のです。

POINT

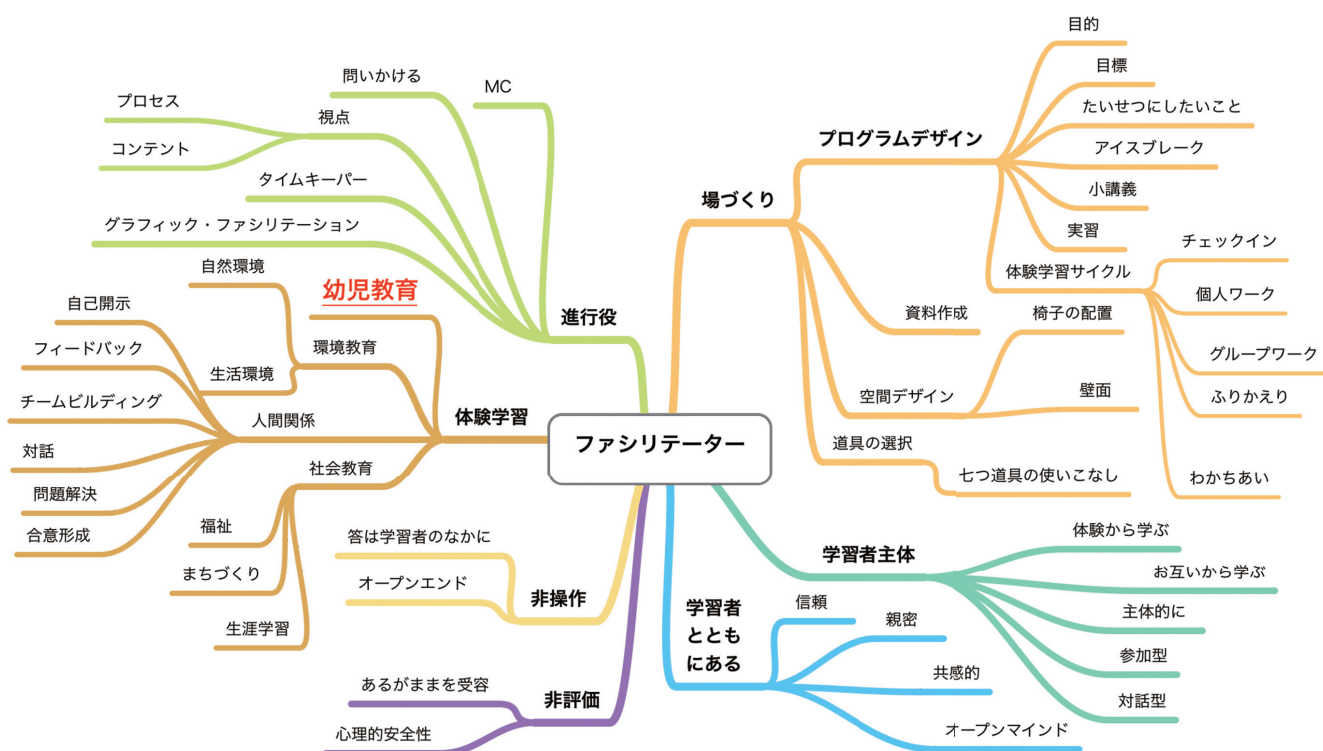
- ・答えは実施園のなかにある
- ・オープンエンド

ファシリテーターの役割

ファシリテーターの多岐にわたる役割を表した図が、下のファシリテーター・ワークマップです。このマップでは「体験学習」のカテゴリーに「幼児教育」を位置づけています。幼稚園教育要領等に示されているように「幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき（中略）試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育」は、まさに体験から学ぶ幼児による体験学習といえます。

保育者が子どもにファシリテーターに関わるのが大切であるのはもちろんですが、近年は保育者集団が「チーム」となって仕事をする重要性が指摘され、同僚性を育むためにファシリテーションスキルを学ぼうという声が高まっています。ECEQ[®] コーディネーターとしてファシリテーションスキルを学び身につけることは、ECEQ[®] コーディネーターの活動だけでなく自園で仕事をする上でも大いに役立つことでしょう。

図表 2-2：ファシリテーター・ワークマップ



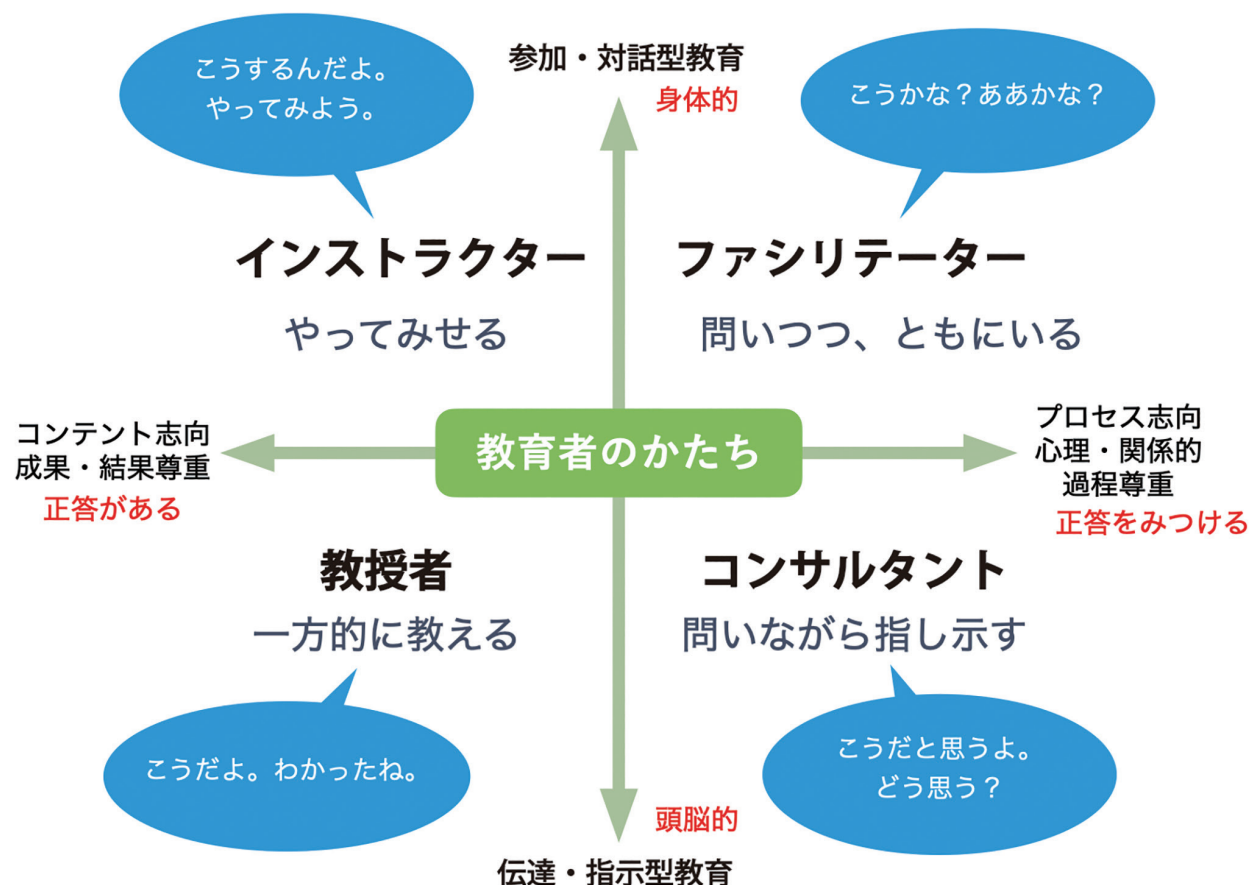
教授者ではなくファシリテーター

教育者の学習者への関わり方が「伝達・指示型」か「参加・対話型」か、教育の重点が「コンテンツ志向：成果・結果尊重」か「プロセス志向：心理・関係的过程尊重」か。教育者には、この2つの次元によって分けられる4つの類型があるといわれています。

ファシリテーターは、正しい答えがある問いを伝達するのではなく、学習者と共に対話しながら、学習者が主体的に答えを見つけ出していくプロセスに関わります。

ECEQ® コーディネーターが実施園に関わるときに十分注意したいことが、この立ち位置にあります。すなわち、実施園の保育内容や保育方針等に対して、ECEQ® コーディネーター自身の考えや知識を、自ら進んで「実施園がより良くなるために教えてあげよう」とする言動は慎まなければならない、ということです。ECEQ® コーディネーターは、教授者ではなくファシリテーターであると常に意識することが大切なのです。

図表 2-3：教育者のかたち



※『教育者のかたち』津村俊充著、プロセス・エデュケーション、金子書房（2019）中の「教育者を養成するための2つの視点」より引用作図

2-6 ^{イーセック}メイン ECEQ[®] コーディネーターと ^{イーセック}サブ ECEQ[®] コーディネーター

^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターはチームで活動する

ECEQ[®] 実施に際して、ECEQ[®] コーディネーターは必ず全 STEP を複数人でチームを組み支援を行います。複数の ECEQ[®] コーディネーターの多様な視点により、「実施園中心」「とにもある」「非評価」「非操作」のふるまいの構えを相互に作っていくためです。その際、責任者となるメイン ECEQ[®] コーディネーターと責任者をサポートするサブ ECEQ[®] コーディネーターを決め、ECEQ[®] コーディネーターがチームを組んで役割分担し連携を取りながら支援を進めていきます。ECEQ[®] コーディネーター同士の相互作用が、ECEQ[®] の質をさらに高めていく仕組みです。

(1) メイン ECEQ[®] コーディネーターの役割

メイン ECEQ[®] コーディネーターは、責任者として ECEQ[®] 全体をコーディネートし、全 STEP においてリーダーとしてふるまいます。いわば、実施園のために ECEQ[®] を企画運営できる知識とスキルを持ち合わせた ECEQ[®] のエキスパートです。そのため、メイン ECEQ[®] コーディネーターを務めるには、サブ ECEQ[®] コーディネーターを経験しておいたり、ECEQ[®] への深い理解をもったりしておくことが大事です。

メイン ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1 でインタビュアーとなり、STEP 2と STEP 5で園内研修を企画実施するファシリテーターとしての役割を担います。STEP 4では、公開保育の全体進行役となりますが、時に分科会のファシリテーターを兼務することもあります。STEP 5を終え、「ECEQ[®] コーディネーター報告書」を作成するのも、メイン ECEQ[®] コーディネーターの大事な仕事となります。

メイン ECEQ[®] コーディネーターとしての役割一覧

- ・責任者（リーダー）として全体をコーディネート
- ・全体を通して 都道府県私立幼稚園団体、関係機関等との連絡支援
- ・STEP1 ECEQ[®] 概要説明、トップリーダーからの聴き取り
- ・STEP2 園内研修企画実施、研修ファシリテーター
- ・STEP3 「問い」づくり支援、公開保育準備支援、関係機関との連携支援

- ・ STEP4 全体進行支援、(分科会ファシリテーター)
- ・ STEP5 園内研修企画実施、研修ファシリテーター
- ・ (STEP6) 実施園記録作成支援、ECEQ[®] コーディネーター報告書作成

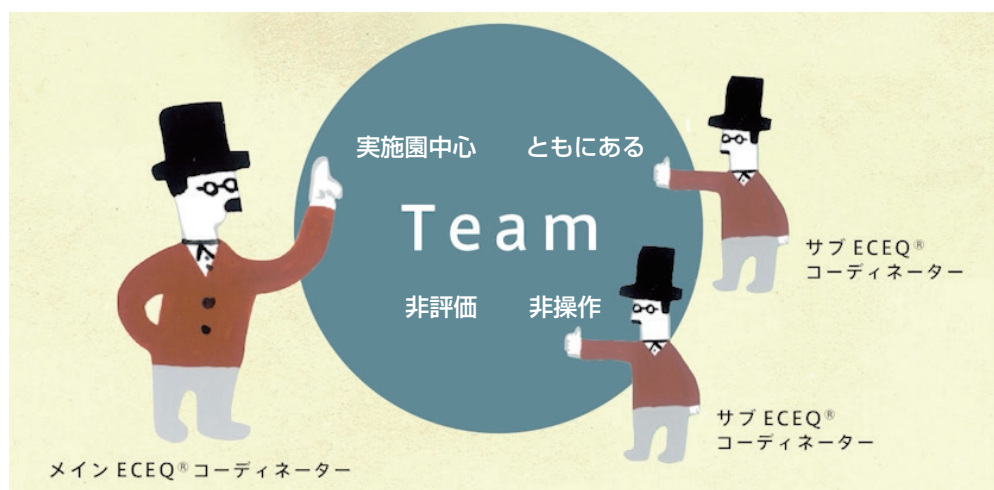
(2) サブ ECEQ[®] コーディネーターの役割

サブ ECEQ[®] コーディネーターは、各 STEP においてメイン ECEQ[®] コーディネーターと連携して ECEQ[®] の運営をサポートします。サブ ECEQ[®] コーディネーターの経験を積んでいくことを通して、ECEQ[®] コーディネーターのスキルアップが得られます。

STEP 2や STEP 5では研修ファシリテーターとして、STEP 4では分科会ファシリテーターとしての役割が求められます。全 STEP において報告書作成のための記録を取ったり、各 STEP でのメイン ECEQ[®] コーディネーターのふるまいに率直なフィードバックを行ったりすることも大切です。「ECEQ[®] コーディネーター報告書」も必ず読んで、確認します。

サブ ECEQ[®] コーディネーターとしての役割一覧

- ・ 全体を通してメイン ECEQ[®] コーディネーターをサポート 全 STEP に関する記録
- ・ STEP1 トップリーダーからの聴き取り
- ・ STEP2 研修ファシリテーター
- ・ STEP3 「問い」づくり支援、公開保育準備支援、関係機関との連携支援
- ・ STEP4 分科会ファシリテーター
- ・ STEP5 研修ファシリテーター
- ・ (STEP6) ECEQ[®] コーディネーター報告書確認



▲ ECEQ[®] コーディネーターはチームワークが大事

ステップ 5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割

ECEQ[®] コーディネーターは、下図の「5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割」を把握しておく必要があります。

図表 2-4：5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割

STEP	内容	メイン ECEQ [®] コーディネーター	サブ ECEQ [®] コーディネーター
全体	・全体を通して	・都道府県私立 幼稚園団体、関係 機関等との連絡支援	・ECEQ [®] コーディ ネーター報告書作成 のための記録
STEP1 事前訪問	・ECEQ [®] の概要説明 ・トップリーダーから の聴き取り	・概要説明 ・進行 ・聴き取り	・聴き取り ・記録
STEP2 事前研修	・ECEQ [®] の概要説明 ・現在位置を知る ワーク	・概要説明 ・園内研修の企画実施 ・園内研修のファシリ テーション	・園内研修のファシリ テーション ・記録
STEP3 STEP4 準備と 「問い」づくり	・問いづくり ・案内づくり ・資料づくり	・「問い」の基本構造 の説明 ・「問い」づくり支援 ・公開保育準備支援	・「問い」づくり支援 ・記録 ・公開保育準備支援
STEP4 公開保育	・オリエンテーション ・保育の公開 ・分科会 ・全体会	・全体コーディネート ・(分科会ファシリ テーション)	・分科会ファシリ テーション ・記録
STEP5 事後研修	・STEP4の 振り返りワーク	・園内研修の企画実施 ・園内研修のファシリ テーション	・園内研修の ファシリテーション ・記録

各 STEP の準備としての 0.5 STEP

ECEQ[®] コーディネーターは、5STEP 全てを円滑に行えるように実施園を支援することが役目です。しかし、各 STEP を有意義な「研修」にするためには、そのための「準備」が大切になってきます。つまり、ECEQ[®] コーディネーターにとっては、各 STEP の前に「0.5 STEP」にあたる「事前打ち合わせの機会」をつくることが欠くことのできない STEP となるのです。この「0.5 STEP」では、必要に応じて ECEQ[®] コーディネーター同士や実施園を交えて、各 STEP の目的を確認したり実施方法を検討したりします。このテキストでは、各 STEP の節に、次の STEP までに確認や検討しておきたい事項を記載しています。実施園が「やってよかった」と思える各 STEP となるように、十分な準備をして各 STEP に臨みましょう。

まとめ

「やってよかった ECEQ® !」 ～ ECEQ® コーディネーターの役割～

☐ ECEQ® コーディネーターとは？

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研修を受けて資格を持った、
幼児教育の理論と実践を理解し、ファシリテーションのスキルを持った専門家

☐ ECEQ® コーディネーターの使命は？

実施園の保育者等が同僚との関係性に支えられる中で、主体的に幼児教育の
質向上を目指す園風土の醸成に寄与すること

☐ ECEQ® コーディネーターのふるまい・構えのポイントは？

「実施園中心」「ともにある」「非評価」「非操作」

☐ ECEQ® コーディネーターが「チームで活動する」とは？

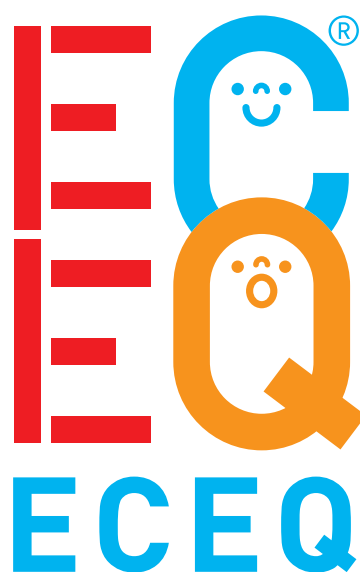
ECEQ® コーディネーターは、複数でチームを組み、互いに連携しながら、
ECEQ® 全体のコーディネートと各 STEP の企画進行を行う

ECEQ[®] コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ[®] Coordinator TextBook & Manual

第3章 ECEQ[®] の実施

3-1	ECEQ [®] 申請前相談	30
3-2	ECEQ [®] 申請受付	31
3-3	STEP1 事前訪問	34
3-4	STEP2 事前研修とは	41
3-5	STEP3 「問い」 づくりと 公開保育の準備	52
3-6	STEP4 公開保育の準備	61
3-7	STEP4 公開保育	67
3-8	STEP5 事後研修とは	77



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第3章 ECEQ®の実施

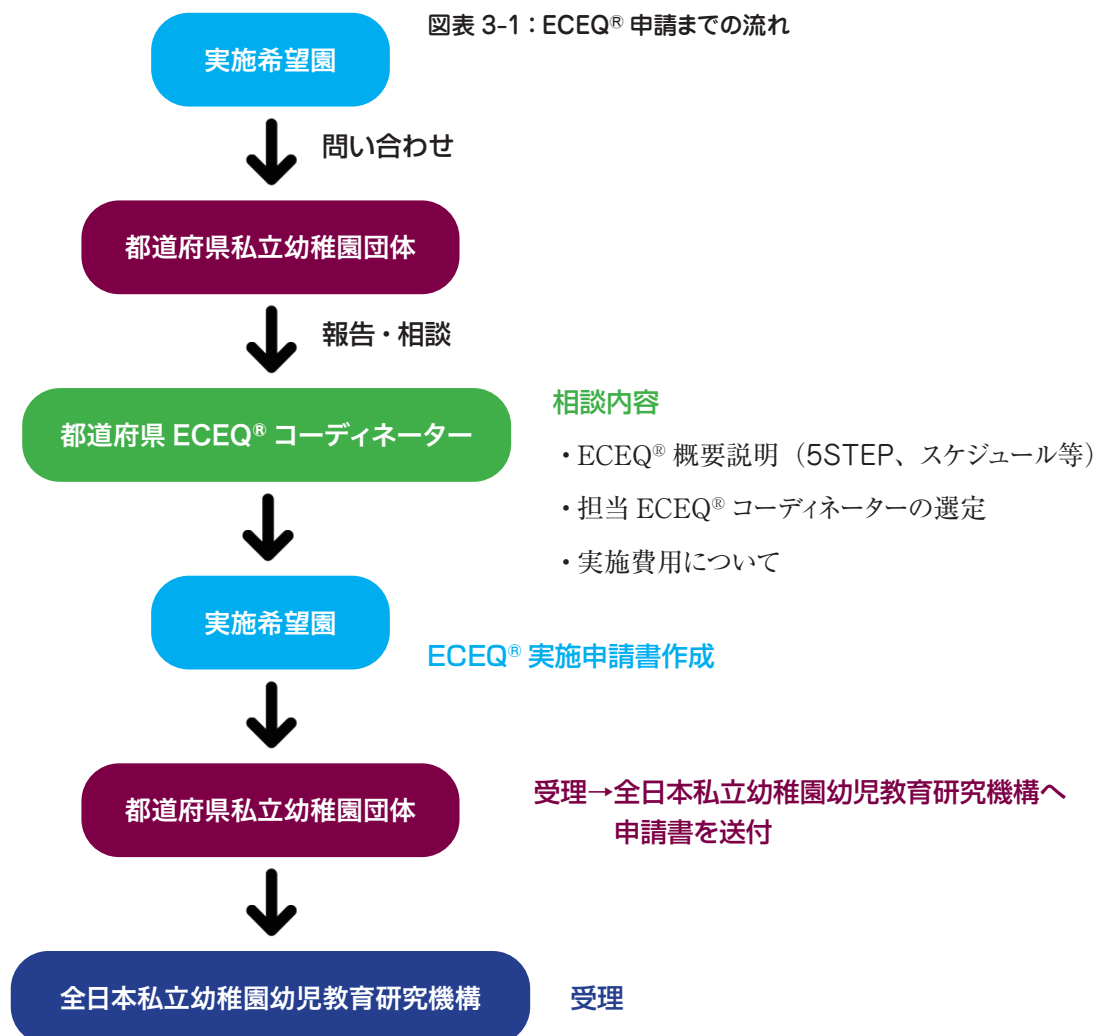
3-1 イーセック ECEQ® 申請前相談

イーセック ECEQ® の旅へ出かける前の STEP

ECEQ® は5STEPで行いますが、実施園側から見ると、STEP1の前に「実施するかどうかを相談する段階」があります。このセクションでは、相談に来られた実施希望園に対して、ECEQ® コーディネーターとしてどのような点に留意して答えると良いかを学びます。

ECEQ® は都道府県私立幼稚園団体が窓口になりますが、団体事務局では実施希望園からの疑問や不安に的確に答えるのは難しいため、ECEQ® コーディネーターが相談に応じます。ECEQ® コーディネーターは、実施希望園の疑問に答えたり、不安を受け止めたりすることで、ECEQ® の円滑な実施につなげます。

図表 3-1：ECEQ® 申請までの流れ



3-2 イーセック ECEQ® 申請受付

イーセック ECEQ® 実施申請から受付

実施希望園からの事前相談を経て ECEQ® の実施が決定すると、実施希望園が ECEQ® 実施申請書に必要事項を記入し、所属する都道府県私立幼稚園団体へ提出します。

申請書の主な記載内容は実施園の基本情報、STEP4 公開保育の実施日とメイン ECEQ® コーディネーターおよびサブ ECEQ® コーディネーター名です。ECEQ® コーディネーターは、実施園所属都道府県から指名することが基本ですが、人数が不足していたり、特別な事情によって実施園が他都道府県の ECEQ® コーディネーターを希望する場合があります。ECEQ® コーディネーター選びは、実施園にとって重要なポイントです。実施申請書は都道府県私立幼稚園団体が、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に送付し、ECEQ® の実施が確定します。

図表 3-2：ECEQ® 実施申請書

令和 年 月 日

(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家 周一 様

住 所
園 名
代表者名

令和 年度 ECEQ®実施申請書

ECEQ® (公開保育を活用した幼児教育の質向上システム) について
別紙のとおり実施を希望するので申請いたします。

(申請書別紙)

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報																		
法人名																			
理事長名																			
園名																			
園長名																			
担当者名	役職名 氏名																		
住所	〒																		
電話番号																			
FAX 番号																			
メールアドレス																			
園児数	人																		
学級数と人数	<table style="width: 100%; font-size: small;"> <tr> <td>年長組</td><td>学級</td><td>名</td><td>年中組</td><td>学級</td><td>名</td><td>年少組</td><td>学級</td><td>名</td></tr> <tr> <td>満3歳組</td><td>学級</td><td>名</td><td>2歳児</td><td>名</td><td>1歳児</td><td>名</td><td>0歳児</td><td>名</td></tr> </table>	年長組	学級	名	年中組	学級	名	年少組	学級	名	満3歳組	学級	名	2歳児	名	1歳児	名	0歳児	名
年長組	学級	名	年中組	学級	名	年少組	学級	名											
満3歳組	学級	名	2歳児	名	1歳児	名	0歳児	名											
保育者数	人																		
職員数	人																		
ECEQ 公開保育 実施予定日	年 月 日																		

ECEQ メイン コーディネーター名	
ECEQ サブ コーディネーター名	


※保育者数・職員数は実員数を明記ください。
<送付先>

STEP0.5

トップリーダーカルテ

ECEQ®の実施が確定すると、早速STEP1に向けて動き出します。メインECEQ®コーディネーターはサブECEQ®コーディネーターとチームとなって活動するため、チームの連絡手段を決めたり5STEPの日程の調整をします。チームが結成できたら実施園に連絡し、STEP1の日程を確定させます。日程が決まったらSTEP1の実施前に、「トップリーダーカルテ」を実施園のトップリーダーに依頼をします。実施園のことをより深く知り、的確なコーディネーションをするためのツールであるという目的を伝え、記載された情報はECEQ®以外では用いずECEQ®コーディネーターチームで厳重に取り扱う旨の念を押します。またトップリーダーは誰であるかも明確に聞いておくことも大切です。記載できたトップリーダーカルテは、STEP1の参加人数分印刷して用意いただくことも伝えておきます。

図表 3-3：トップリーダーカルテ

ECEQ® 実施園 トップリーダーカルテ				ECEQ® 実施園マニュアル	
園名					
氏名		役職名			
自園の良さ・好きなどころ・伸ばしたい点					
自園の課題・うまくいっていない点・改善したいところ					

※トップリーダーカルテは『ECEQ® コーディネーターマニュアル』参照

まとめ

ECEQ[®]の旅路に向けて

☐ 申請前相談とは？

ECEQ[®] 開始前の重要なステップ

実施希望園の不安や迷いを軽減し、ECEQ[®] への期待と希望を高めていけるように、必要最小限の ECEQ[®] 概要説明等を端的に伝える機会

☐ 必要最小限の概要とは？

- ・5STEP の流れ
- ・公開保育希望時期
- ・ECEQ[®] コーディネーターの選定
- ・実施費用

☐ 申請受付とは？

実施希望園が ECEQ[®] 実施申請書を作成し、
実施園が所属する都道府県私立幼稚園団体に提出

3-3 ^{ステップ} STEP 1 事前訪問

イーセック ECEQ®の旅のスタート

「STEP0.5」旅路の準備をしっかりと整えた後、「やってよかった ECEQ®」に向けた一歩を踏み出します。

STEP1 の目的は大きく分けると2つです。1つ目は、実施園のトップリーダーに ECEQ® の概要を説明すること。2つ目は、実施園を支援するために必要な情報を聴き取ることです。

STEP1 は実施園を支援するために、ECEQ® 全体を通して ECEQ® コーディネーターが常に意識しておくべき「トップリーダーのメッセージ」を理解するための重要な STEP です。

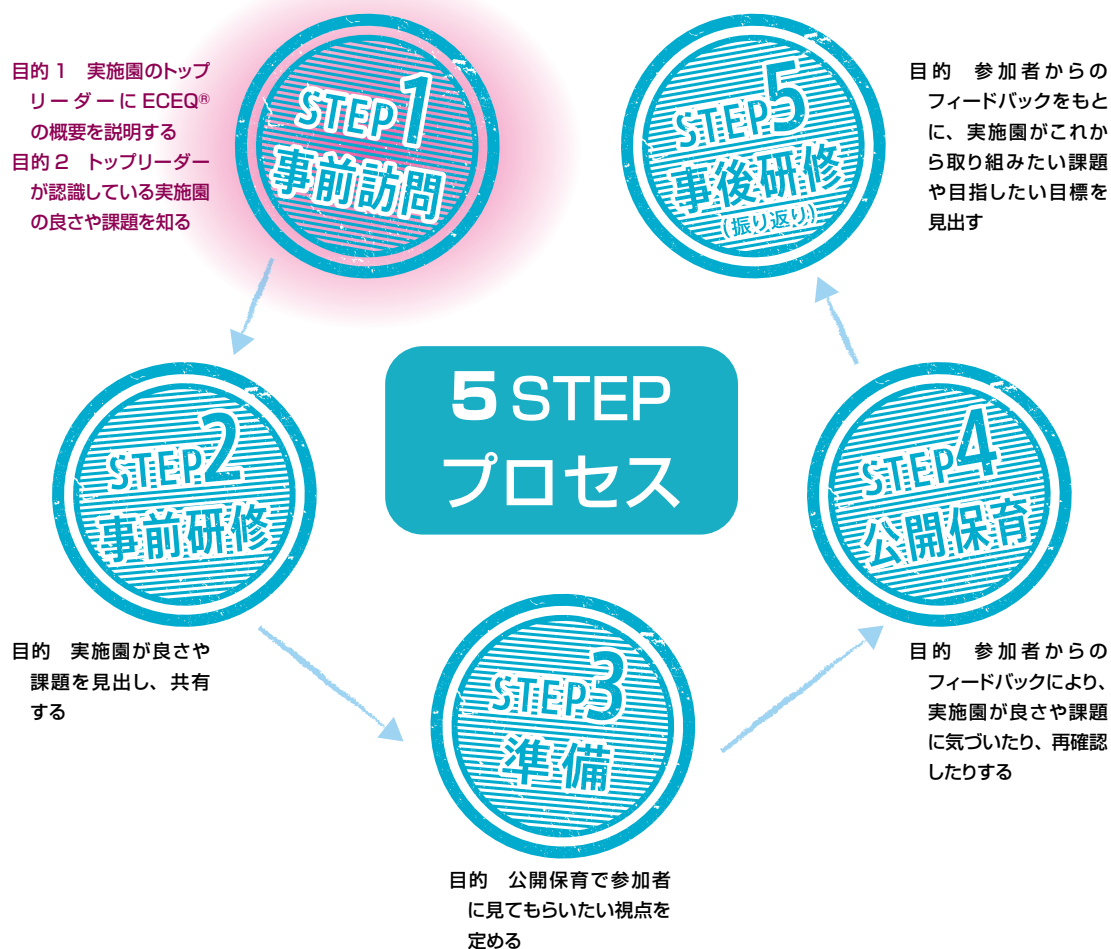
(1) STEP1 の目的・目標

目的

- ・トップリーダーに ECEQ® の概要を説明し、実施に際しての不安を軽減する
- ・トップリーダーが認識している自園の良さや課題を知る

目標

- ・トップリーダーと信頼関係の基礎を構築する
- ・トップリーダーの ECEQ® への期待や不安を知る
- ・保育者の関係性、トップリーダーのリーダーシップ等、実施園の風土を感じ取る
- ・保育目標、保育内容等、実際の保育方針を知る
- ・ECEQ® 実施に対しての期待と希望をトップリーダーに持ってもらう



(2) STEP1 の準備

ECEQ[®] コーディネーターは、STEP1 がスムーズに行えるよう、実施園との事前打ち合わせを密に行う姿勢をもつことが大事です。特に準備物については参加者の負担がないよう、実施園に既にあるものを聴きながら用意を依頼します。準備段階で気づいたことや情報は、ECEQ[®] コーディネーターチームで事前に共有しておき、ヒアリングのポイントを合意しておくことも大切です。STEP1 の進行や ECEQ[®] 概要説明はメイン ECEQ[®] コーディネーターの仕事です。ただし、サブ ECEQ[®] コーディネーターのレベルアップを図るために、トップリーダーへのインタビューについては、経験のあるメイン ECEQ[®] コーディネーターに記録役としてサポートしてもらいながら、サブ ECEQ[®] コーディネーターが行っても良いでしょう。インタビューとしての心持ちはファシリテーターそのものです。第2章を読み返して、準備を進めましょう。

ECEQ® コーディネーターが準備するもの

- ・ECEQ® コーディネーター認定証
- ・ECEQ® 概要説明に必要な資料（ECEQ® 紹介動画、ECEQ®PASSPORT 等）
- ・ICレコーダー等 ※使用する場合には、事前にトップリーダーの承諾を得る

実施園（トップリーダー）が準備するもの

- ・トップリーダーカルテ
- ・園の概要が分かる資料
（沿革、理念、園児数、職員数、クラス数、保育内容等が分かるもの）

図表 3-4：ECEQ® 実施申請書

令和 年 月 日

（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家 周一 様

住 所
園 名
代表者名

令和 年度 ECEQ®実施申請書

ECEQ®（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）について
別紙のとおり実施を希望するので申請いたします。

（申請書別紙）

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	
理事長名	
園名	
園長名	
担当者名	役職名 氏名
住所	〒
電話番号	
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	人
学級数と人数	年長組 学級 名 / 年中組 学級 名 / 年少組 学級 名 満3歳組 学級 名 / 2歳児 名 / 1歳児 名 / 0歳児 名
保育者数	人
職員数	人
ECEQ 公開保育 実施予定日	年 月 日

ECEQ メイン コーディネーター名	
ECEQ サブ コーディネーター名	

※保育者数・職員数は実員数を明記ください。
<送付先>

STEP1 における ECEQ[®] コーディネーターの留意点

○ ありたい姿

- ・ファシリテーターとしての構えを理解して対話する
- ・ECEQ[®] 実施に対して敬意を表明する
- ・ECEQ[®] コーディネーター自身がリラックスして笑顔を絶やさず、場の雰囲気をつくる
- ・緊張する場合は、冒頭にアイスブレイクを入れる
- ・ECEQ[®] コーディネーターは評価者ではなく実施園の味方であると念を押す
- ・実施園の「お役に立ちたい」という気持ちを常に持ってふるまう
- ・現在の悩みや課題をおだやか、共感的に聴く（傾聴）
- ・トップリーダーとしてのこれまでの苦労を労う心持ちでふるまう
- ・「トップリーダーカルテ」に沿って、対話しながら（問いかけながら）聴き取る

× あってはならない姿

- ・説明や感想をだらだらと述べる
- ・「聴く」ことが「問いただす」ことになってしまっている
- ・悩みや課題に対して ECEQ[®] コーディネーターの自説で答える
（ファシリテーターではなく、教授者やコンサルタントになってしまっている）
- ・時間を守らない（延長する）

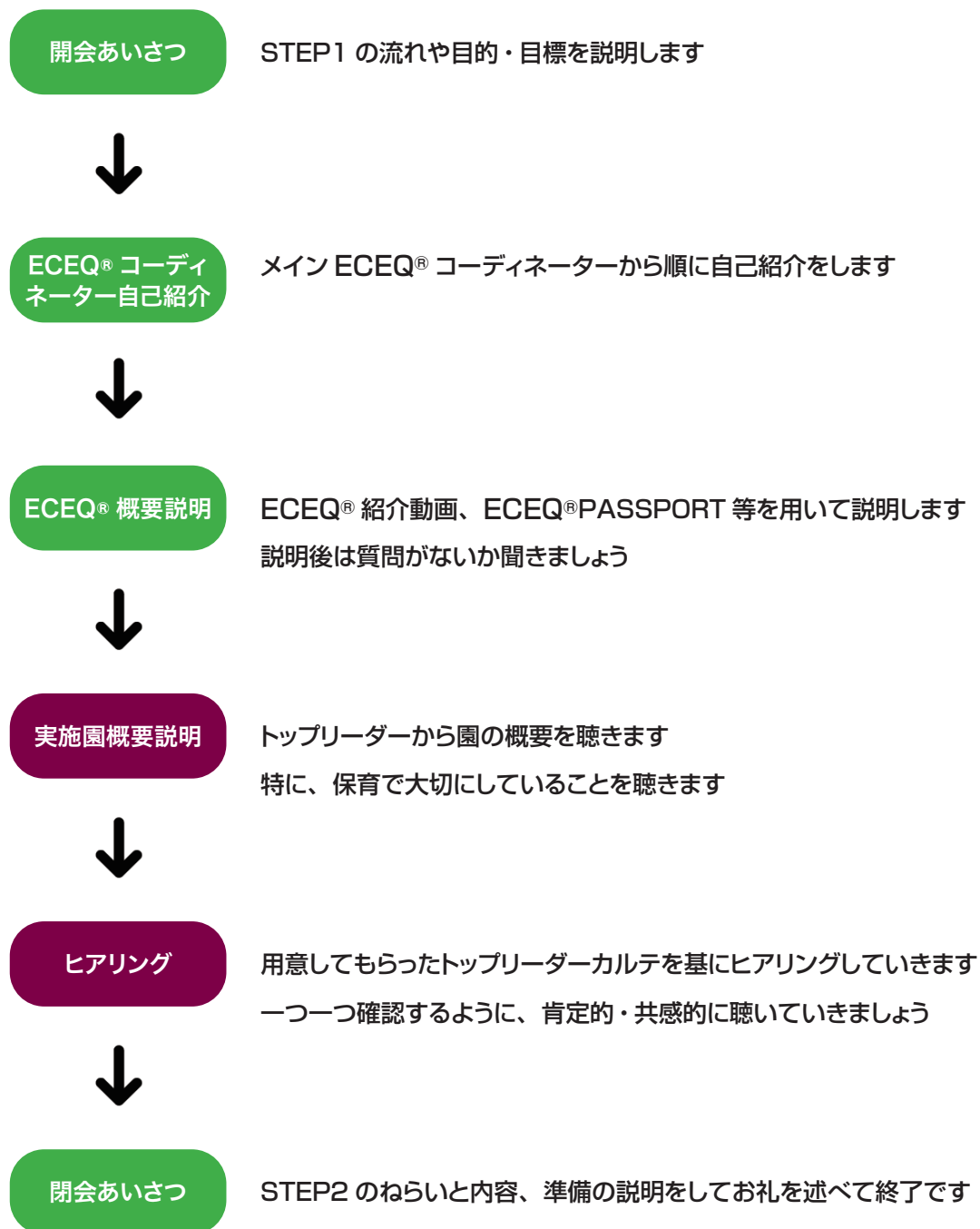


▲ STEP1 の和やかな風景

(3) STEP1 の実際

STEP1 の流れは下の図のようになります。

図表 3-5：STEP1 の流れ（標準 1 ～ 1.5 時間）



※ STEP1 の進行表は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』参照

ECEQ[®] 概要 必須説明チェックリスト

トップリーダーの不安を軽減し、ECEQ[®] を正しく理解してもらうために、以下の点を必ず説明します。

- ・実施園がまんなか
- ・実施園が「やってよかった ECEQ[®]」と思えることが目標
- ・ECEQ[®] コーディネーターの役割
- ・5STEP プロセスと ECEQ[®] 実施認定証発行までの流れ
- ・STEP4 公開保育での「問い」の重要性と有効性
- ・実施費用
- ・学校関係者評価加算
- ・実施園記録の作成
- ・ECEQ[®] コーディネーター報告書

STEP1.5

ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1でトップリーダーから聞いた内容を、ECEQ[®] コーディネーターチームで整理し共有します。整理する観点は、トップリーダーカルテに沿った実施園の良さや課題、不安、疑問等です。特に、トップリーダーが保育者チームの現状をどう評価しているか、チームに望むありがたい姿等を整理することは、STEP 2以降、ECEQ[®] コーディネーターがどういった姿勢で保育者チームに関わるかを決める重要な指標となります。

トップリーダーから見たキーマンや課題があるチーム等の情報を事前に整理しておくことで、STEP 2の進行をよりの確に行うことに役立つことでしょう。整理する過程であいまいな点や推測の域を出ない点等については、あらためてトップリーダーに確認することもあります。

STEP 1の内容がしっかり聴き取れ整理されていることが、ECEQ[®] 全体に大きく影響を及ぼします。このことを念頭において、ECEQ[®] コーディネーターチームで十分に話し合うことが大切です。

まとめ

ECEQ® の旅のスタート

☐ STEP1 とは？

ECEQ® コーディネーターチームが実施園を訪問

ECEQ® の概要説明とトップリーダーへのヒアリングを行う

トップリーダーと ECEQ® コーディネーターの信頼関係を構築する重要な STEP

☐ STEP1 の目的は？

ECEQ® の概要を理解してもらう

トップリーダーの思いを聴き取る

実施園の風土を感じ取る

☐ STEP1 で ECEQ® コーディネーターが心がけることは？

共感的・受容的に丁寧に接し、トップリーダーに本音を語ってもらえるように

ファシリテータータイプに対話をする

☐ STEP1 のゴールは？

ECEQ® コーディネーターとトップリーダー層の信頼関係の構築

トップリーダーの保育者等への評価の聴き取り

3-4 ^{ステップ} STEP2 事前研修とは

実施園の保育者と イーセック ECEQ[®] コーディネーターの学びの場

STEP 2 は、実施園の現場の保育者等と ECEQ[®] コーディネーターが初めて出会う園内研修の場。「ECEQ[®] とは何か」について実施園に理解してもらい、自園の現在位置を共有するワークを実施します。

実施園の保育者等は、外部から突然やってきた ECEQ[®] コーディネーターに対して、「どんな人だろう?」「何をするんだろう?」という不安を抱えています。

そのため、まずは ECEQ[®] コーディネーター自身が自分は何者であるかを紹介した後、ECEQ[®] の概要を説明し、ECEQ[®] は何のために行うのか、今後の各 STEP で何をするのかについて理解してもらうことを目指します。

また、ワークでは、自園の良さや課題を見出し自園の現在位置を共有し、STEP 4 公開保育前のスタートラインを確認することも STEP 2 の目的です。ECEQ[®] コーディネーター側にも緊張感がありますが、発言しやすい和やかな雰囲気づくりにも配慮しながら、実りある話し合いができるようサポートします。

大切なことは、「教授者」ではなく「ファシリテーター」としての立ち位置を意識することです。「実施園の保育者と共に学ぶ場をつくる気持ちで臨むこと」を忘れないようにしましょう。

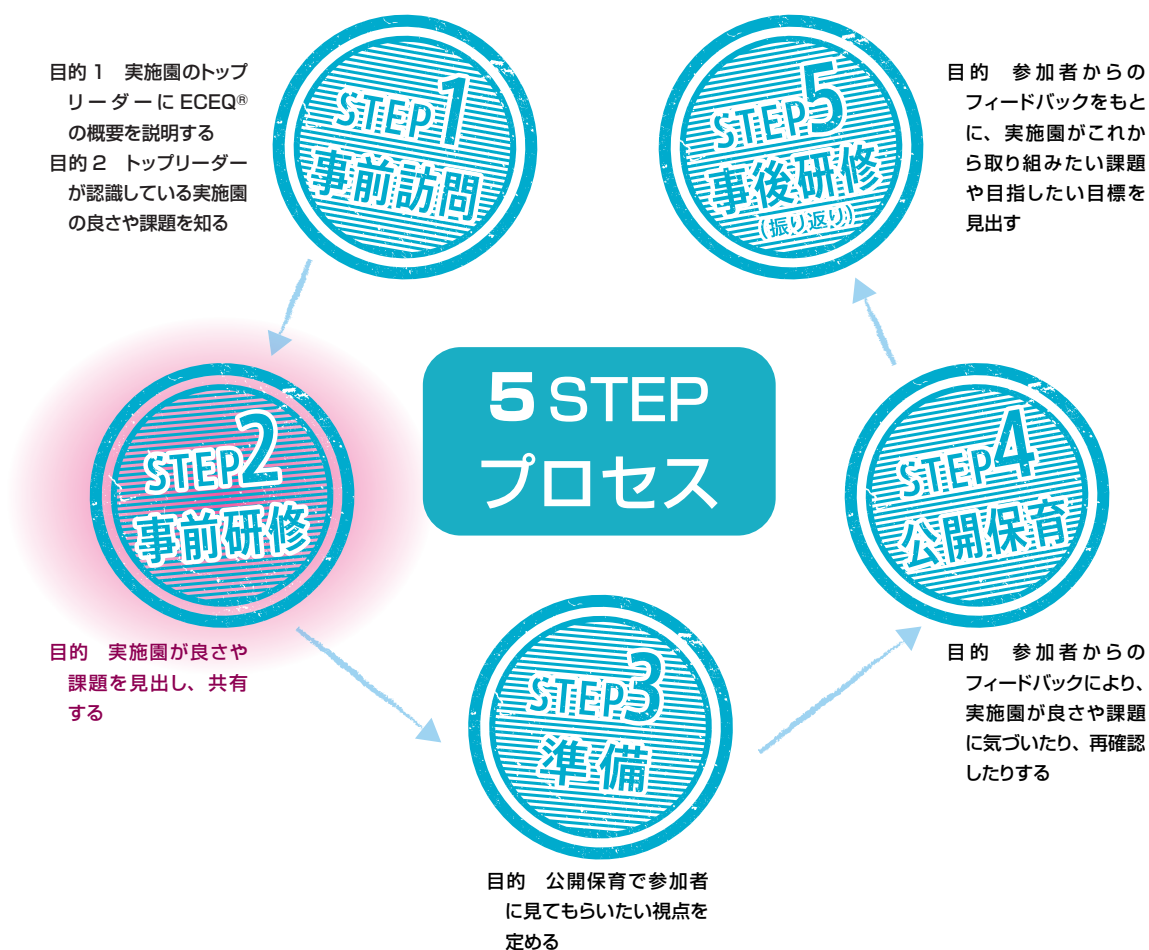
(1) STEP2 の目的・目標

目的

- ・実施園の保育者等が ECEQ[®] の概要を理解し、自園の良さや課題を見出し、共有する

目標

- ・ECEQ[®] コーディネーターが実施園の保育者等と信頼関係の基礎を構築する
- ・実施園の保育者等が話しやすい雰囲気をつくる
- ・実施園の保育者等が ECEQ[®] への期待感をもつ



ECEQ®の旅はスタートしたばかりです。これからの長い道のりを共に歩んでいく「仲間」として、実施園の保育者との信頼関係は欠かせません。その基盤づくりとなるのがSTEP2です。ECEQ®コーディネーターは、保育者が「この人となら一緒に旅に出かけられる」と思えるよう安心感を与え、信頼関係の基礎を築いていきます。

ワークでは、経験年数にかかわらず誰もが自分の思いや考えを出すことが大切です。ファシリテーターとしての技法はもちろんですが、保育者が心をほぐし、和やかな雰囲気のもとでSTEP2に参加できるような工夫が必要です。

また、「ECEQ®って何?」「私たちはどこに連れていかれるの?」という保育者等の当初の不安が、「ECEQ®っておもしろそう!」「ゴールに向かって進んでみよう!」という期待に変わることも、STEP2の過程において達成したい目標です。ECEQ®コーディネーターは、保育者等にECEQ®へのポジティブな気持ちをもってもらうことを念頭に置いてSTEP2を進めます。

(2) STEP2 の準備

STEP2 の大きな柱は、「ECEQ® の概要説明」と「現在位置共有ワーク」です。STEP1 でヒアリングしたトップリーダーの意向を再度確認して、メイン ECEQ® コーディネーターを中心に ECEQ® コーディネーターチームで企画します。「現在位置共有ワーク」は、基本型として推奨する「田の字法」ワークの他にもさまざまなバリエーションがありますが、まずは基本型をマスターしましょう。慣れてくれば実施園に合わせたワークを行っても良いでしょう。

ワークへの参加者を決める

事前にトップリーダーと「現在位置共有ワーク」の参加者を確認しておきます。ECEQ® は園全体の質向上を目指すものです。一緒に保育をつくっている副担任やクラス補助の保育者等にもできるだけ参加してもらうことが肝要です。参加者が決まったら、実施園に参加者名簿をもらい、実施園の意向をよく聴いてグループ分けをします。

ワークのために準備するもの

- ・ 模造紙
- ・ 水性顔料マーカー
- ・ 付箋
- ・ ホワイトボード



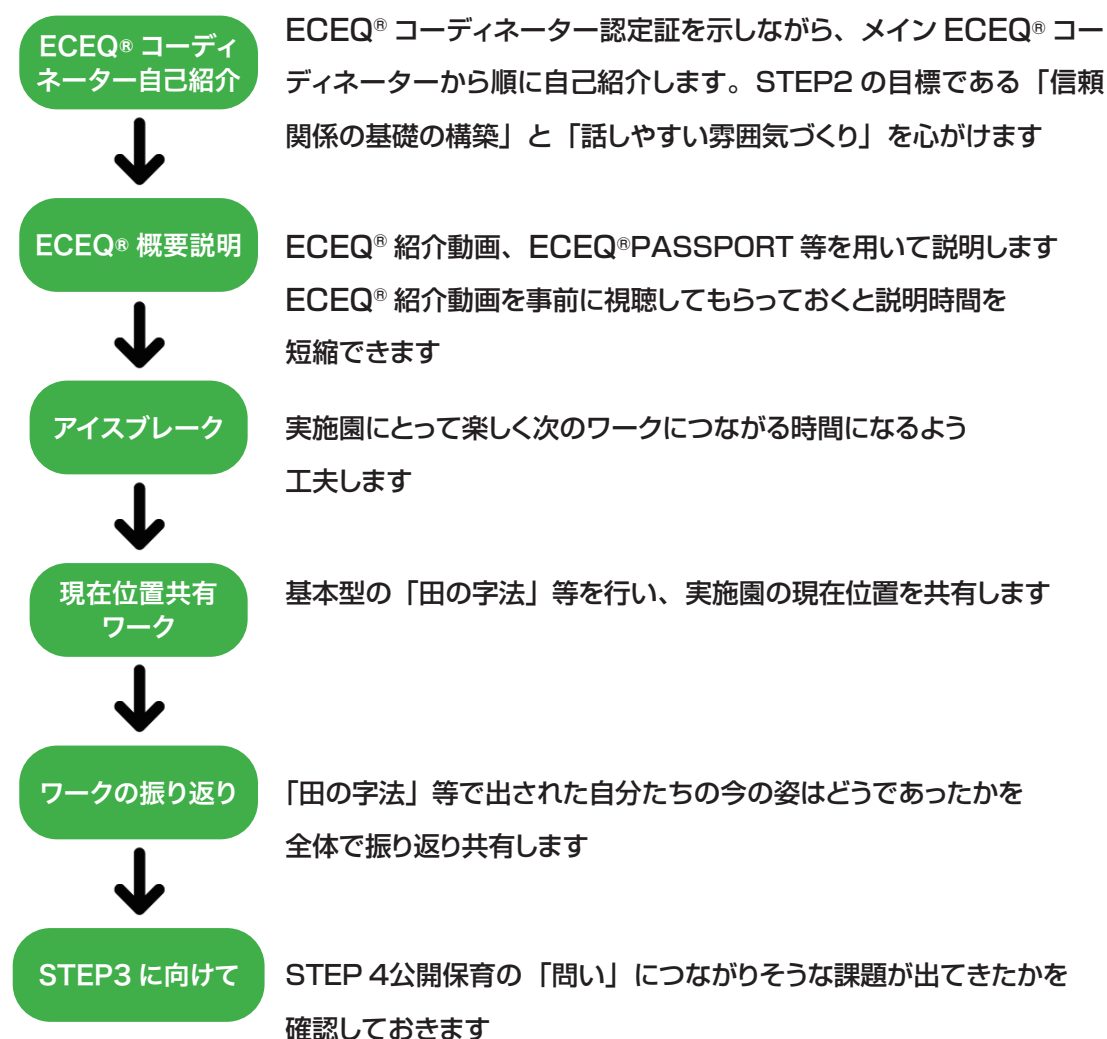
▲現在位置共有ワークに取り組む実施園の保育者

(3) STEP2 の実際

「ECEQ®の概要を理解してもらう」「自園の良さや課題を見出してもらう」ためのSTEP2全体の流れは、下図のようになります。実施に際しては、ECEQ®コーディネーターはどのような存在なのか、「自己紹介」や「概要説明」の際に繰り返し説明し、STEP2を通して保育者に理解してもらうことも大切です。「評価」や「指導」をする立場ではなく、ECEQ®の「ナビゲーター」であり、「共に学ぶ」関係性であることを丁寧に伝え、ワーク等を通して体现しましょう。これがECEQ®全体への理解を促すことにもなります。

実施園の良さや課題を見出す「現在位置共有ワーク」では、外部の人間であるECEQ®コーディネーターの前で自園の課題を見つけたり、マイナス要素を開示したりすることになります。これは勇気の要ることであり、保育者等のストレスになることも想定されます。ECEQ®コーディネーターが受容的な態度でかかわり、実施園の保育者等にとって「心許せる味方」であると感じられるようにすることが重要です。

図表 3-6：STEP2 の流れ（標準2～3時間）



(4) STEP2 各セクションで大事にしたいこと

ECEQ® コーディネーター自己紹介

第一印象が大事です。笑顔でハキハキ、おだやかに話すことを心がけます。ECEQ® コーディネーター全員が園名、氏名、ならびに ECEQ® コーディネーターとしての期待等を端的に話します。

「いまの気分」「好きな（苦手な）食べ物」「マイブーム」等、場を和ませる統一したテーマを加えたり、1人1分を計時して話したりすることも、今後のワークの進行の見本となります。特に、初めて ECEQ® コーディネーターとして参加する場合に注意したいのは、「今回は初めてです。わからないことばかりで皆さんにご迷惑をかけることになるかもしれませんが、たくさん学ばせていただきたいです」等と謙遜して言うことです。気持ちはわかりますが、これでは逆に実施園に不安を喚び起こすことになります。たとえば、「今回はデビュー戦です。少々若々しさに欠けるルーキーですが、皆さんの『やってよかった ECEQ®』のために精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします!」と素直に、爽やかに自己開示することが、信頼感を生むことにつながります。



▲ ECEQ® コーディネーターがリラックスして臨むことが大切

ECEQ® 概要説明

ECEQ® 概要説明のチェックポイント

ECEQ® 概要説明では、以下の点に留意します。

- ・ ECEQ® とは？

そもそも ECEQ® とは何か？（第1章 1-1～1-5参照）

- ・ 5STEP プロセス

5STEP の流れ（第1章 1-6 参照）

- ・ ECEQ® コーディネーターの役割

ECEQ® コーディネーターはどのような役割を果たすのか？（第2章 2-1～2-3参照）

- ・ やってよかった ECEQ® !

ECEQ® コーディネーターとしての思いや願い（第2章 2-2参照）

アイスブレイク

アイスブレイクとは、「氷のように固まっている心の状態を砕いて緊張をほぐす手法」です。研修の前に行うことで、和やかな雰囲気をつくり、リラックスして参加できる状態にします。誰もが気兼ねなく発言し、その発言を認め合う雰囲気をつくることで、特にワークの活性化が期待できます。アイスブレイクは心を解きほぐすことが目的ですので、すでに先生方の雰囲気が良い場合はあえて行わなくても良いでしょう。STEP1 におけるヒアリングの内容や、園内に入った時の雰囲気等を参考に判断しましょう。

アイスブレイク例

- ・好きな〇〇で自己紹介
- ・後出しじゃんけん
- ・〇〇と言えば
- ・1分を当てよう
- ・漢字発見ゲーム
- ・類人猿診断



▲アイスブレイクが場の雰囲気を和らげる

※アイスブレイクワークの詳細は『ECEQ[®] コーディネーターマニュアル』参照

現在位置共有 ワーク

STEP2 の肝ともいうべきワーク。ECEQ® コーディネーターは、ファシリテーターとしての心もちを大切に、特に以下の点に留意して進めていきます。

- ・それぞれの考えを肯定的に受けとめる雰囲気のもとで行います
- ・付箋を出す際に、その具体的な内容を口頭で説明することが大切です
- ・似た内容の付箋をまとめていくプロセスにおける対話も大切です。

意見の本質的な部分や他の意見との関連性等を探れるようにサポートします

- ・参加者のワークの経験値を聞いておきます。付箋を使うのも初めてに近い場合は、付箋の書き方等ワークの進め方そのものについてある程度の説明が必要です。



▲現在位置共有ワークの風景

ワーク例

STEP2 のワークの目的は、実施園の保育者等が自園の良さや課題を共有して現在位置を確認することです。ゴールに向かう道は様々ですが、効果的なワークの方法として、「田の字法」を紹介します。

田の字法

田の字法は、その名の通り「田」の字のように4つのエリア（象限）にフレームを分けて、4つの問いを当てはめ考えを可視化していく方法です。4つの問いの1番目は現在の自園をふりかえって、「好きなところ」「いいところ」「自慢できるところ」等のこれからも続けたいところ（第1象限）、2番目は「難しく思うところ」「悩むところ」「困っているところ」「変えたいところ」等の課題点（第2象限）、3番目は「第2象限の課題の原因」（第3象限）、4番目は「これからなりたい姿」「こうなったらいいな」等という理想や希望（第4象限）を挙げます。

所要時間は60～90分ほどです。

第1象限 「好きなところ」 「いいところ」 「自慢できるところ」	第4象限 「これからなりたい姿」 「こうなったらいいな」
第2象限 「難しく思うところ」 「悩むところ」「困っているところ」 「変えたいところ」	第3象限 「第2象限の課題の原因」

STEP2.5

実施園の保育者等が自園の良さや課題を共有して現在位置を確認することができれば、STEP2の目的は達成です。次の大事なSTEP3「問い」づくりに臨むために、この段階で一度ECEQ®全体のプロセスを見通しておきます。

STEP1でトップリーダーから聴いたこととSTEP2で出された現場の実感を比べてみて、トップリーダーのしている園の姿と現場の保育者等から見た園の姿は同じか、違うとしたらどこがどう違うのか、気づいたこと感じたことをECEQ®コーディネーターチームで確認しておきます。

「問い」づくりの準備

STEP2で共有された良さや課題から「問い」づくりをする場合、その「問い」を「参加者に見てもらえそう」な場面で想定し、公開保育時の保育を計画してもらいます。

他方で、良さや課題に関連する場面が公開保育であまり見られないことが想定される場合は、STEP2で整理したキーワードに縛られすぎず「問い」を考えても良いことを実施園に伝えます。

STEP4 公開保育分科会のグループ分けの確認

STEP2の結果を見て分科会グループを再確認します。

分科会ごとに違う「問い」が立てられることが一般的ですが、大規模園では同じ「問い」で複数の分科会を持つこともあります。配置できるファシリテーターの数も鑑みて、分科会をどう持つか実施園と相談して決めます。

まとめ

実施園保育者と ECEQ[®] コーディネーターがともに学ぶ場

☐ STEP2 とは？

STEP2 は、実施園の保育者と初めて出会う場

和やかな雰囲気づくりに配慮しながら、ECEQ[®] への期待感を高めてもらう

☐ STEP2 の目的は？

ECEQ[®] の概要を理解してもらい、実施園の良さや課題を見出して共有する

☐ STEP2 で ECEQ[®] コーディネーターが心がけることは？

話したくなるような場づくりが、ECEQ[®] コーディネーターの重要な支援の1つ
ワークでは、多様な意見を引き出す

☐ STEP2 のゴールは？

STEP3 以降への見通しと期待をもてるようにして終える

3-5 ^{ステップ}STEP3「問い」づくりと公開保育の準備

^{ステップ}STEP 3とは

STEP3 は、STEP4 公開保育で参加者に尋ねる「問い」づくりと、公開保育開催のための参加者募集から当日の資料や会場の準備等「公開保育の準備」の段階です。

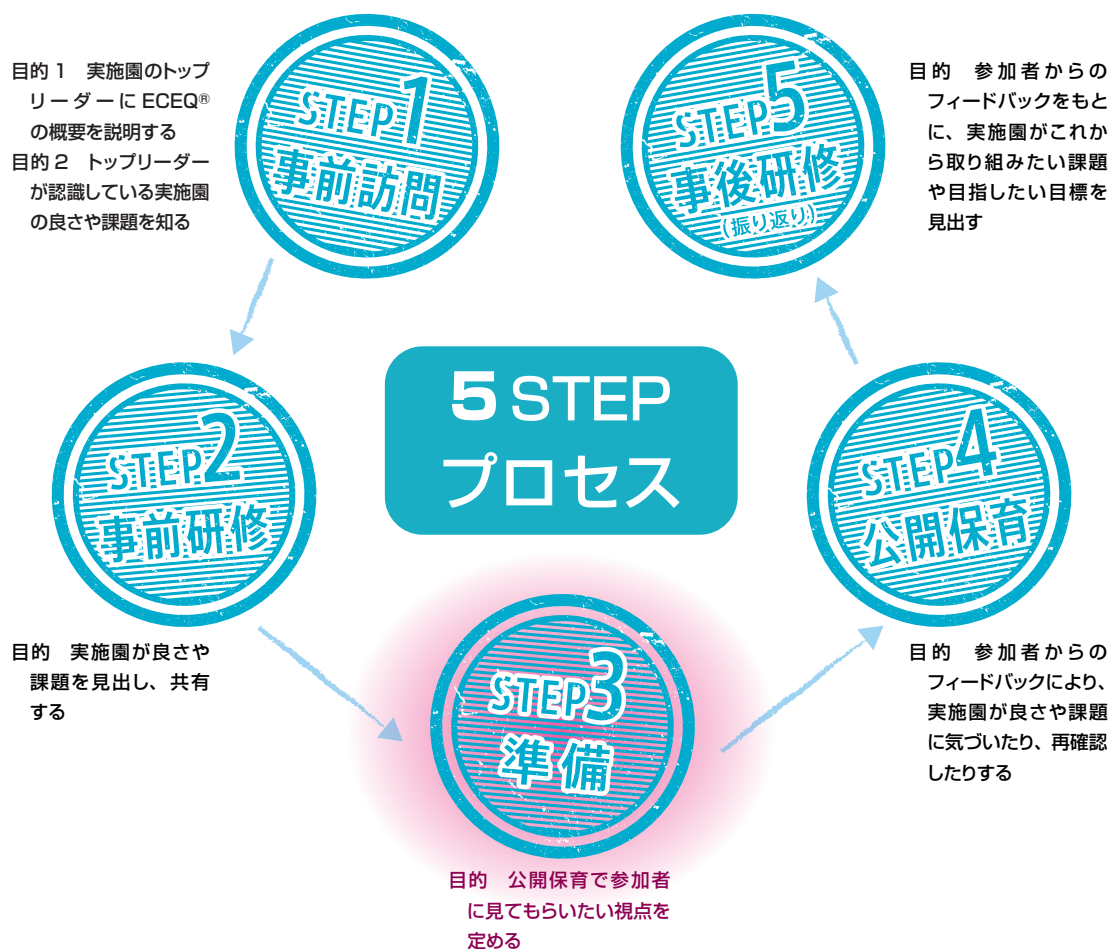
(1) STEP3「問い」づくりの目的・目標

目的

- ・実施園の保育の質向上に関わるフィードバックを得るために、参加者に見てもらいたい視点を定める

目標

- ・実施園が「本当に知りたい事」が聞ける「問い」になるようにする
- ・参加者が答えやすい「問い」になるようにする



(2) 「問い」とは何か

「問い」は、STEP4 公開保育当日に参加者からフィードバック（質問・意見・感想等）をもらうためのしかけで、保育室やコーナーなど、園内に掲示したり配付資料に記載したりします。保育を見た参加者は、その「問い」に対するフィードバックを付箋に書き込んで、ボード等に貼り出します。「問い」が媒介となって、ECEQ® 実施園と参加者の間にコミュニケーションが生まれ、分科会での話し合いが活性化するのです。せっかく公開保育をするのですから、参加者からは、教育・保育の質の向上に寄与するフィードバックをたくさんもらいたいもの。そのためには、STEP4 当日のふだん通りの保育実践の「どこを見てほしいのか?」「何を聞きたいのか?」「どのような事を教えてほしいのか?」実施園から参加者に具体的な投げかけが必要です。つまり「問い」を設定するということは「このような視点で保育を見てください!」「このようなテーマについての意見をください!」というメッセージを伝えて、参加者に「窓」を与えることになります。参加者は、主にこの「窓」を通して保育を見るため、実施園が抱える課題に確実にフォーカスされます。質の向上につながるフィードバックを得るためには、参加者に適切な「窓」を与えることが欠かせません。だからこそ、「問い」作りは重要なのです。



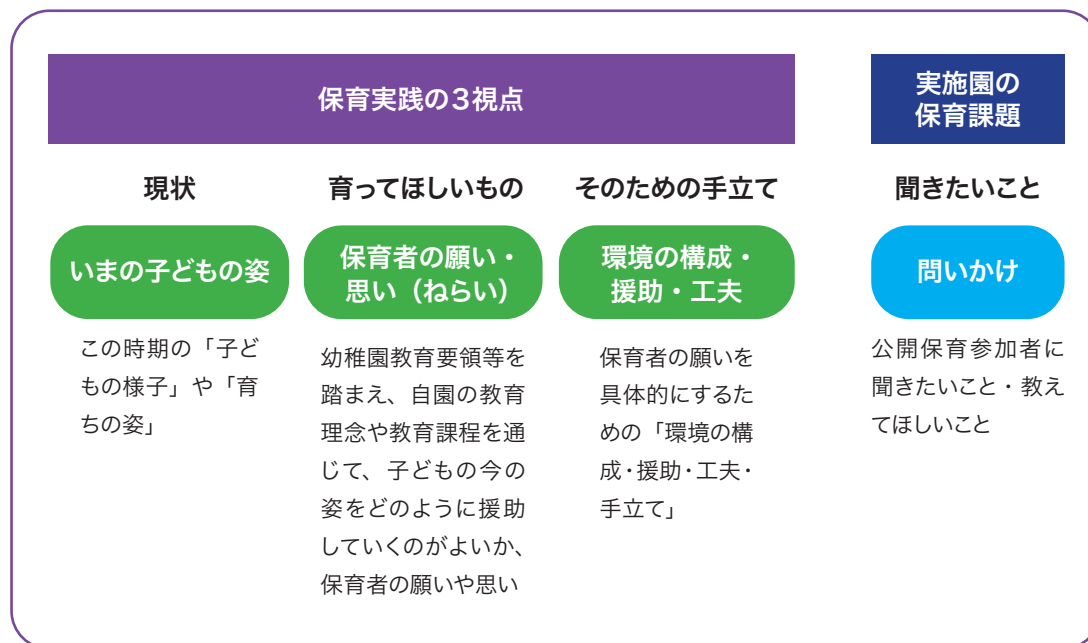
▲廊下に貼り出されている「問い」ボード

(3) 「問い」の基本構造

「問い」の構成は、保育を考えるときのロジック（論理的な思考）と同じです。「問い」には図のように、保育実践を構成する3つの視点と問いかけで組み立てられます。まずは『いまの子どもの姿』を見て、子どもの何が育っているか、子どもに何が育とうとしているかの子ども理解が出発点。そうして理解したことに照らし合わせて「育ってほしい資質・能力」「身につけてほしい技能や思考」など『保育者の願い・思い』をねらいとして設定し、ねらいを実現するために『環境構成・援助・工夫』や活動を計画します。「問い」は、こうして組み立てて実践している保育に対して、公開保育参加者からフィードバックをもらうために問いかける言葉を付け加えたものになります。

ECEQ® コーディネーターは公開保育参加者の立場で、3つの視点と問いかけがつながり、伝わりやすく読みやすい文章になるよう、作文支援をしていきます。

図表 3-7: 「問い」の基本構造



3つの視点と実施園の保育課題は 何を大切にしているか

いまの子どもの姿

この時期の「子どもの様子」や「育ちの姿」に対し、園としての願いや思いが先行してしまわないように、あくまでも今、目の前の子どもの様子や育ちの姿の事実として書き出します。想像、思い込み、推測などの不確かな個人的な解釈ではなく、客観的な事実から教育・保育を考える視点を大切にします。

書き出し例

「今、子どもたちはこのようなことに興味を持っています」

「子どもたちはこのような様子です」

保育者の願い・ 思い（ねらい）

幼稚園教育要領等を踏まえ、実施園の教育理念や教育課程を通じて、子どもの今の姿をどのように理解し援助していくのがよいか、保育者の願いや思いを書きます。目の前の子どもの姿を読み解き、これからの育ちの姿を思い描き、今あるいはこれから保育者が意識することや保育者の願い・思い（ねらい）がどこにあるのかを明らかにします。こうした保育者の意図を参加者に伝えることで、実施園が大切にしていることが明確になります。

書き出し例

「今、私たちはここを大事にしています。意識しています」

「このようなことを話合っています」

環境の構成・ 援助・工夫

ねらいを実現するためにどのような環境構成や援助等をするのかを書きます。例えば、STEP 4で公開保育参加者に環境構成の工夫についてアドバイスを聞きたいという場合も、まず「私はこのようなねらいを持ってこのような環境構成の工夫をしている」ことを明示することが、的確なフィードバックを得るためには重要です。

書き出し例

「このような環境構成をしています」

「だから、このような援助をしています」

問いかけ

問いかけは、実施園の「聞きたいこと・教えてほしいこと」が何かということを、参加者が端的に知るためにあります。

問いかけが、参加者の保育を見る観点を絞る「窓」となります。代表的な7文型と、具体的なフィードバックを得られる各文型で用いる「問いかけ言葉」の例を紹介します。

A フリー型 肯定否定、フリーになんでも聞きたい

問いかけ言葉例 「気づいたこと感じたことを教えてください」

B 二極型 良い点・改善点、両方ほしい

問いかけ言葉例 「よかった点や改善すべき点について教えてください」

C 改善型 ずばり対案や新アイデア、改善策募集

問いかけ言葉例 「もっとこうしたらいいと思うことは何ですか」

「他にはどうしたらよいでしょうか」

「よりよくするためには、さらにどうしたらよいでしょうか」

D 評価型 客観的な評価がほしい

問いかけ言葉例 「子どもたちの様子はどう見えたでしょうか」

「ねらいと活動はあっているでしょうか」

E ある視点型 まったく違う視点がほしい

問いかけ言葉例 「あなただったら、このねらいでどのようなことをしますか」

F 参照型 他園を参考にしたい

問いかけ言葉例 「あなたの園ではどのようにしていますか（考えていますか）」

G 発見型 ○○な姿がどのような場面で見られたか

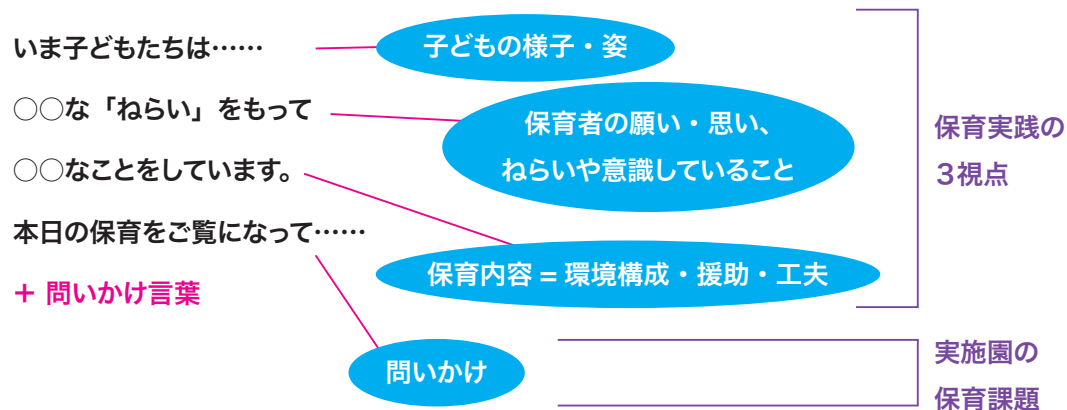
問いかけ言葉例 「どのような場面でそのような姿が見られたでしょうか」

最後の問いかけが「～の取り組みはどうですか」というような漠然とした問いかけでは、善し悪しだけのフィードバックに留まってしまうこともあります。具体的なフィードバックをもらえるような「問い」にするために、最後の問いかけ方が重要となります。

「問い」の基本型

「問い」は、何を聞きたいかを保育者が主体的に見出した課題の中から定め、どう聞けば答えやすいかを参加者の身になって書くことがポイントです。読み手の読解力に不安があり詳細に記述するあまり長文になり、かえって読みづらくなることは避けます。できるだけシンプルに、聞きたいことが明解な文章を心がけ、以下の構文例のように「保育実践の3視点」と「実施園の保育課題」を押さえた文の構成にして、保育実践のどこを見てもらって何についてフィードバックがほしいのかを明文化した「問い」にすることが大切です。

図表 3-8：「問い」の基本型例



※「問い」づくりの詳細は『ECEQ[®] コーディネーターマニュアル』参照

「問い」事例

4 歳児 部屋のあそび環境と片付け

子どもが好きな遊びを自由に行え、自分で片付けられるように、おもちゃや製作道具を子どもがすぐに手に取れる場所に置いています。友達と一緒に主体的に遊ぶことはできるのですが、保育者がいないコーナーではモノの扱いが雑になってしまったり、空間が乱雑になることが悩みです。片付けも自分から進んでやろうとする子どもがおらず、すべてのコーナーで保育者の促しが必要です。自由感を守りながら、片付けも進んでできるようになってほしいのですが……。

- (1) おもちゃや製作道具、コーナー設定で、よかった点と改善点を教えてください。
- (2) 片付け場面での保育者の関わりや片付け方について、気づいたこと感じたことを教えてください。
- (3) 4 歳児の片付けについて、あなたの園ではどのようなことをねらいにしていますか。

(4)「問い」づくりへの支援

ECEQ® コーディネーターは、実施園にどう支援できるか

「問い」づくりは、あくまでも実施園が主体となって行うものですが、ECEQ® コーディネーターには、「問い」そのものが本当に参加者に聞きたい内容になっているか、参加者が答えやすい「問い」か等を共に考えていながら支援していくことが求められます。「問い」の作文をEメール等のやり取りで支援する場合であっても、実施園の保育者が見出した課題を客観的に精査し、「問い」として明文化する作業を実施園の保育者と共にしっかりと行うことが大切です。

「問い」が完成するまで、実施園とのやり取りが長期間繰り返されたり、なかなか完成しない場合、実施園の保育者の意欲の減退や疲弊につながりかねません。実施園の立場で、気持ちよく「問い」づくりができるよう支援していきます。

「問い」づくりは実施園のものです。非評価・非操作を心がけて実施園のプロセスに関わります。

STEP3「問い」づくりのECEQ® コーディネーターの役目

- ・「問い」とは何かの説明
- ・「問い」作文の支援

まとめ

STEP3 「問い」づくり

☐ 「問い」とは？

「実践のどこを見てほしいのか?」「何を聞きたいのか?」「どのような事を教えてほしいのか?」実施園から参加者への具体的な問いかけ

☐ 「問い」の基本構造は？

『いまの子どもの姿』『保育者の願い・思い（ねらい）』『環境構成・援助・工夫』の保育実践を構成する3つの視点と、実施園の保育課題で構成される

☐ 「問い」づくりの支援とは？

実施園が本当に尋ねたい内容を「問い」として書くことができるように支援する

3-6 ^{ステップ} STEP3 ^{ステップ} 「STEP4公開保育の準備」

^{ステップ} STEP4 公開保育に向けて

(1) STEP3「STEP4公開保育の準備」の目的・目標

目的

- ・STEP4公開保育を円滑に実施するための準備をする

目標

- ・STEP4公開保育の会場設営や運営方法を決める
- ・STEP4公開保育に必要な物を用意する
- ・実施園の保育者等がSTEP4への期待感をもつ

(2) STEP4 公開保育の主な準備内容

STEP4公開保育当日までに準備することは、大きく分けると3つあります。1つ目はSTEP4公開保育への参加者募集です。実施園と都道府県私立幼稚園団体が相談しながら募集案内を作って参加者を募ります。2つ目は「公開保育ガイドブック」や参考資料の作成。公開保育当日に参加者に配付したり閲覧してもらったりできるように、当日までに準備します。「公開保育ガイドブック」は、園の概要や園内配置図、日案や「問い」などを記載した冊子です。3つ目は公開保育を実施するための準備物や会場設営の用意です。

参加者募集案内

参加者募集案内を作成して都道府県私立幼稚園団体から加盟園等にお知らせしてもらいます。

当日資料づくり

「公開保育ガイドブック」を作成し、その他の配付資料や閲覧資料を決めます。

会場設営計画

「問い」ボード、受付、全体会場、昼食場所、分科会会場や案内ボード、名札などを用意します。



▲「公開保育ガイドブック」例

参加者募集案内づくり～参加応募受付の準備

参加者募集案内づくりは、実施園が都道府県私立幼稚園団体と連携をとって作成できるように支援します。その際、募集案内は誰がいつどのように作り、いつ誰にどのように募集をかけるか、参加者の募集状況や結果を都道府県私立幼稚園団体とやり取りする窓口は誰かを確認しておきます。

図表 3-9：STEP 4公開保育準備物一覧

内容	主体	期日
(1) 参加者募集案内作成	実施園・都道府県私立幼稚園団体	公開保育当日のおよそ2か月以上前
(2) 参加者募集	都道府県私立幼稚園団体	公開保育当日のおよそ2か月以上前
(3) 受付名簿作成	都道府県私立幼稚園団体	公開保育当日のおよそ2週間前まで
(4) 当日資料作成	実施園	公開保育当日のおよそ1週間前まで
(5) 会場準備	実施園	公開保育前日まで

当日資料づくり～「公開保育ガイドブック」とその他の保育関連資料

「公開保育ガイドブック」は、参加者に配付する最も重要な当日の案内資料です。参加者はこのガイドブックを手にとって保育を見学します。掲載する内容は基本的に実施園が決められますが、最小限必要な情報と、あればなお良いものがあります。以下に示す内容例を参考にしてください。また、当日資料は「公開保育ガイドブック」以外にも教育課程や指導計画、日々のドキュメンテーションや園案内など、実施園が参加者に知っておいてほしいと思う資料を用意すると、参加者はより実施園を知ることができ、的確なフィードバックの助けとなるでしょう。実施園には、自園の保育をオープンにすればするほどフィードバックが得られやすくなると助言してください。それが、「実施園、参加者、ECEQ®コーディネーターが共に学ぶECEQ®」のポリシーです。

「公開保育ガイドブック」内容例（必須★★★ あればなお良い★★ なくても可★）

- ★★★ 園の概要（所在地、定員、園児数、職員数など）
- ★★★ 職員名簿とクラス
- ★★★ 園内配置図
- ★★★ 「問い」に対するフィードバックの書き方
- ★★★ 「問い」
- ★★★ タイムスケジュール
- ★★★ 当日の日案
 - ★★ 実施園あいさつ
 - ★★ 保育理念・目標
 - ★★ 教育課程・指導計画
 - ★★ 教育・保育方法
 - ★★ 各種注意事項
 - ★ 園の沿革
 - ★ 主催者あいさつ
 - ★ 園の実績
 - ★ 参加者名簿



※「公開保育ガイドブック」の詳細は『ECEQ®コーディネーターマニュアル』参照

保育資料以外の準備物と会場設営の準備

ECEQ® コーディネーターは、実施園マニュアルを示しながら、実施園が資料として参加者に配付したいものを決めたり、効率的な会場設営についての相談に乗ったりします。

準備物例

- ☐ 名簿の作成（ECEQ® コーディネーター、一般参加者、行政、地域、学校関係者評価委員等に分類）
- ☐ 配付物の作成（教育課程、指導計画、週案・日案、園だより、入園案内、メディア取材記事、ドキュメンテーション等）
- ☐ 受付の用意（名簿、テーブル、参加代・昼食代領収書、スリッパ、お釣り用現金）
- ☐ 「問い」ボード
- ☐ 案内掲示物等
- ☐ お弁当の発注

会場設営

- ☐ 参加者荷物置き場と休憩所
- ☐ ECEQ® コーディネーター控え室
- ☐ 全体会、分科会の会場（椅子やテーブルの配置、ホワイトボード、マイク等）
- ☐ 下足置き場
- ☐ 受付
- ☐ 分科会
- ☐ 全体会



▲公開保育当日、準備万端整った全体会会場



▲分科会会場

※公開保育準備物、会場設営の詳細は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』参照

STEP3.5

STEP4 公開保育は、STEP 2までの過程を通して見えてきた実施園の良さや課題をSTEP3で「問い」という「保育実践を見る窓」に作り変え、「問い」を通して参加者からフィードバックを受ける場です。自分たち（実施園）だけではわからなかった良さや課題に、第三者から気づかされる貴重な機会となります。単に園を開くのではなく、園の学びの延長線上のSTEPの一つとして公開保育を実施することに、ECEQ®の大きな意義があります。そのため、ECEQ®コーディネーターは実施園に実りのある公開保育となるように心を配り準備を進めることが大切です。

分科会のファシリテーター・記録（グラフィック）者を決める

STEP 4公開保育の分科会はファシリテーターが進行役を務め、分科会の数だけファシリテーターが必要となります。複数の分科会がある場合はサブ ECEQ® コーディネーターがファシリテーターを務めることが多くなりますが、その場合メイン ECEQ® コーディネーターはできるだけファシリテーターの役目はせずに、分科会全体に気を配ることができるようにすると良いでしょう。ファシリテーターの数が足りなければ、当日の参加者の中に ECEQ® コーディネーターや地域の教研委員がいる場合にはお願いしたり、ファシリテーションに慣れている実施園なら実施園のリーダー等をお願いするなど、記録者も併せてファシリテーター役を誰が務めるかを実施園と相談しながら事前に決めておくとい良いでしょう。

ECEQ® コーディネーターの確認事項

STEP3「問い」づくりからSTEP4までにECEQ®コーディネーターが確認しておくことは、「問い」が適切に作られているかです。そして念のために、その「問い」の実践を見るために何時にどこへ行けばよいかが明確になっていることを確認します。それらを確認できたら、「問い」ボードや「公開保育ガイドブック」に反映してもらいます。

まとめ

STEP4 公開保育の準備

☐ STEP4 公開保育の主な準備内容は？

参加者募集、当日資料づくり、会場設営計画

☐ 募集案内の留意点は？

募集案内は誰がいつどのように作り、いつ誰にどのように募集をかけるかを確認できているか

参加者の募集状況や結果を都道府県私立幼稚園団体とやり取りする窓口は誰か

☐ STEP3.5 での確認事項は？

分科会でのファシリテーターや記録者は誰が務めるのか

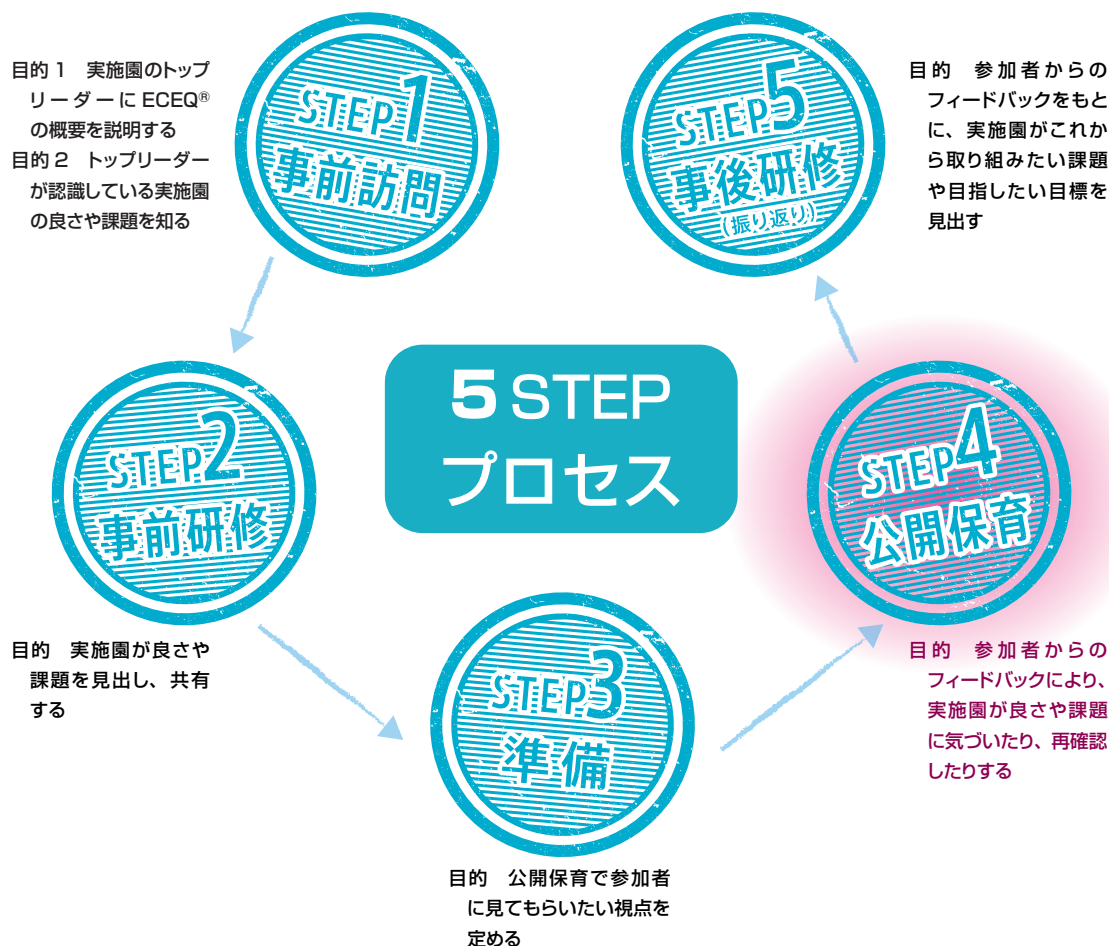
「問い」は適切に作られ、「問い」ボードや「公開保育ガイドブック」に明確に記載されているか

3-7 公開保育

イーセック

ECEQ®の核、公開保育

いよいよ ECEQ® の核ともいえる公開保育です。STEP 1 から STEP 3までは、実施園の現在位置を自ら確認していくプロセスでしたが、この STEP 4 は、保育を見た参加者から「問い」に対してフィードバックをもらうことで、外部の視点から実施園の現在地がどのように見えるかを知る貴重な機会となります。また、公開保育後の分科会で、実施園の保育者と参加者が開かれた関係の中で対話することを通して、実施園の保育者等が自園の良さや課題に新たに気づいたり、再確認したりすることができます。ECEQ® コーディネーターは、ファシリテーションの技法を使いながら、実施園が知りたいことを常に意識して進めていくよう心がけましょう。STEP 1からの積み重ねの上に今日があり、今日の延長線上に STEP 5があることを見通しながら臨むことも大切です。また、特に公開保育に慣れていない実施園の保育者は緊張するでしょうし、ECEQ® が初めてという参加者は見通しがもてずに不安な気持ちでいるはずです。雰囲気づくりや丁寧な説明も求められ、ECEQ® コーディネーターの知識とスキルがフルに発揮される STEP です。



(1) STEP 4の目的・目標

目的

- ・参加者からのフィードバックにより、実施園の保育者等が自園の良さや課題に新たに気づいたり、再確認したりする

目標

- ・「問い」に基づいて、参加者からフィードバックを得る
- ・実施園と参加者の学び合いの場となる

目標を達成するためには、公開保育当日関わる全ての人が実施園のために一緒に考えるという雰囲気づくりや、対話を促進するためのしかけ、ECEQ[®] コーディネーター同士や実施園との連携が欠かせません。特に、ECEQ[®] コーディネーター同士は、公開保育当日朝（受付開始前）から、昼食休憩中、全体会終了に至るまで、常に連携する必要があります。また、当日朝は笑顔で挨拶しながら実施園保育者の表情やトップリーダーの状況を確認した上で、ちょっとした声かけ等で実施園の緊張を和らげるなど、普段通りの保育ができるようサポートすることも ECEQ[®] コーディネーターの役割です。



▲保育見学風景

(2) 公開保育当日のスケジュール

STEP 4公開保育は、オリエンテーション、保育見学、分科会、全体会と大きく4つのセッションから成り立っています。どのセッションも省いたり簡素化することはできません。実施園、参加者、ECEQ® コーディネーターの三者が共に学び合うために、すべて必要なプロセスとなっているためです。以下に示す標準的なスケジュールを基本型に、各セッションの開始・終了時刻や所要時間の長短は認められますので、実施園とECEQ® コーディネーターで相談し、実情に応じて作成します。なお、STEP 4公開保育は実施園の保育者・参加者・ECEQ® コーディネーターに研修スタンプが発行されます。スタンプ対象の時間はオリエンテーション、保育見学、分科会、全体会の合計（5～6時間）となります。

図表 3-10：標準的なスケジュール例

時刻	所要時間	内容	ECEQ® コーディネーター
8:30	0.5 時間	受付	ECEQ® コーディネーターチーム打ち合わせ
9:00	0.5 時間	オリエンテーション	ECEQ® 概要説明
9:30～12:00	2.5 時間	保育見学	保育見学
12:00～13:30	1.5 時間	昼食	昼食～実施園と分科会前打ち合わせ
13:30～15:30	2 時間	分科会	各分科会全体進行支援
15:30～16:30	1 時間	全体会	司会進行

3時間

スタンプ
合計6時間

3時間



▲朝のオリエンテーションの様子

※当日の全体進行表は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』を参照

(3) オリエンテーション、保育見学、分科会、全体会の流れ

オリエンテーション

オリエンテーションでは、主にメイン ECEQ® コーディネーターや実施園が司会進行を務め、ECEQ® の概要、当日のスケジュール、注意事項等について参加者に伝えます。ECEQ® コーディネーターは、実施園のために、実施園の保育者が知りたいことについて一緒に考える場であることや、参加者が実際にどのような方法でフィードバックすれば良いかを丁寧に説明しておくことが大切です。ただし、大切な保育の見学時間を削ることにならないよう簡潔に伝えるよう心がけましょう。

オリエンテーションの流れ

- ・開会あいさつ(メイン ECEQ® コーディネーターまたは実施園)
- ・主催者あいさつ(都道府県私立幼稚園団体長等)
- ・実施園あいさつ(実施園園長等)
- ・ECEQ® コーディネーター紹介(ECEQ® コーディネーター)
- ・ECEQ® 概要説明(メイン ECEQ® コーディネーター)
- ・保育見学、フィードバックの仕方
(メイン ECEQ® コーディネーター)
- ・本日のスケジュール
(メイン ECEQ® コーディネーターまたは実施園)
- ・施設の案内、注意事項等(実施園)

参加者に伝えたい心構え

ECEQ® コーディネーターがオリエンテーションで参加者に強調して伝える点は、参加者にどのように保育を見学しフィードバックしてもらいたいかということです。まず実施園が質向上のために各 STEP を踏んできたことそれ自体に敬意を表します。STEP4 では参加者と一緒に考えたいこととして掲示されている「問い」に対して、「実施園の質向上を願って」フィードバックをたくさんしてほしいと伝えます。決して参加者自身の保育観を押しつけたり、実施園の保育に対して間違っていると否定したりするようなフィードバックにならないよう、念を押しておくことが重要です。

※オリエンテーションの詳細は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』を参照

保育見学

ECEQ[®] コーディネーターが保育を見学しておくことはもちろんのことですが、その他にもいくつか気を配っておくことがあります。特に、見学開始後はECEQ[®] コーディネーター自身が積極的にフィードバックの付箋を貼ったり参加者に促すなどして、「問い」ボードへのフィードバックをしやすい雰囲気を作っていきます。付箋の量はどうか、ポジティブ・ネガティブのバランスはどうか、内容はどのような傾向であるか等を意識しながら、分科会の進め方についてECEQ[®] コーディネーター同士で相談しておきます。ECEQ[®] コーディネーターは原則的に、実施園の保育者に対して保育そのものについての自らの意見を述べることはしないほうが良いでしょう。ただし、分科会の進行上実施園にとってプラスになると考えられる場合は、自らフィードバックに参加する場合があります。また、参加者の見学態度や行動が保育の支障をきたしていると考えられる場合、声がけをすることもECEQ[®] コーディネーターの役割です。

ECEQ[®] コーディネーターの保育見学時の留意点

- ・フィードバックの付箋の量や内容の把握
- ・ECEQ[®] コーディネーターチームでの分科会の進め方の検討
- ・フィードバックへの参加（付箋の書き込み）
- ・参加者の見学態度や行動への声がけ



▲保育見学の様子

昼食

ECEQ® コーディネーターにとって昼食時間は、ECEQ® コーディネーターチームで情報を交換する時間となります。保育や付箋の内容を見た上で、実施園の保育者と分科会前の打ち合わせをし、分科会をどのように進めていくかを相談しておきます。必要であれば、実施園トップリーダーと昼食を食べる場合もあります。そこでも午前中の感想や午後からの要望などを聞いておきます。



▲実施園の園長先生と打ち合わせを兼ねて昼食

分科会前 打ち合わせ

昼食が済むと、ECEQ® コーディネーターは実施園の保育者と分科会前打ち合わせを行います。保育者と共に「問い」ボードに貼り出されたフィードバックを読み、分科会で協議する内容を決めていきます。分科会を進めていく上で、実施園の保育者と分科会の内容を擦り合わせておくことは非常に重要です。少なくとも30分程度は時間をとれると良いでしょう。



▲実施園の保育者と ECEQ® コーディネーターで付箋を読み合う

※分科会前打ち合わせの詳細は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』を参照

分科会

実施園の保育者と参加者がグループごとに集まって、午前中の保育についてファシリテーターの進行で話し合う場です。分科会前の打ち合わせで決めた話し合いたい内容に沿って、対話をします。ファシリテーターは、実施園の保育者が本当に知りたいことを聞いているかを確認しながら進行します。

分科会のねらい

- ・実施園の話し合いたい内容について、分科会の参加者から有益なフィードバックを得る

分科会の流れ

- ・ファシリテーター、記録担当あいさつ
- ・実施園の保育者への労いの言葉
- ・分科会のねらいの共有（実施園のために）
- ・アイスブレイク（参加者の自己紹介・心持ち・公開保育のポジティブな感想等）
- ・実施園の保育者からの情報提供（最近の子どもの姿・当日の保育や「問い」の意図）
- ・「話し合いたいこと」について実施園の保育者から投げかけ
- ・「話し合いたいこと」についての対話

ファシリテーターが留意すること

ねらいを達成するために、安心感があり対話のしやすい雰囲気をつくることがファシリテーターに求められます。大切なことは、実施園の保育者が知りたいことを聞き出し、参加者に投げかけ、それについての返答をもらうことです。とても難易度が高いことのように思われがちですが、初めから多くを達成しようとしたり、全てをコントロールしようとしたりする必要はありません。『ECEQ[®] コーディネーターマニュアル』にいくつかのポイントを載せていますので参考にしてください。

メイン ECEQ® コーディネーターの役割

ファシリテーターの数が足りなければ分科会に入ることもありますが、それ以外は分科会に入らず、全体の流れを把握しておくようにしましょう。分科会中に休憩時間がある場合は、その間に各ファシリテーターとコミュニケーションを取ることもできます。また、各分科会の進行によっては、全体会の時間を長くするなど調整が必要な場合は、実施園と相談し、分科会と全体会の時間配分を変更することもあります。そうした分科会全体をコーディネートすることもメイン ECEQ® コーディネーターの大切な役割です。

全体会

全体会では、各分科会で話し合われた議題やフィードバックについて、実施園の保育者が報告し、必要があれば各分科会のファシリテーターが補足します。この際、全ての議論を網羅して報告する必要はありません。実施園の保育者には心に残ったことや引っかけたこと、これから取り組みたいと思ったことなどを中心に発表してもらった後、ファシリテーターが議論の内容を簡潔にまとめて補足すると良いでしょう。話し合いを受けて実施園を評価したり、ECEQ® コーディネーター自身の意見を述べたりしないよう注意が必要です。公開保育の目的は参加者からフィードバックを得ることですので、メイン ECEQ® コーディネーターが全体の議論をまとめる必要はありません。ここでのメイン ECEQ® コーディネーターの最も大切な役割は、全体会を滞りなく終えるために進行することです。

全体会のねらい

- ・各分科会でのフィードバックの内容を参加者全員と共有する

全体会の流れ

- ・全体会の進め方説明（メイン ECEQ® コーディネーター）
- ・各分科会のフィードバック報告（実施園の保育者、ファシリテーター等）
- ・あいさつ（実施園園長等）
- ・実施園や参加者への謝辞（メイン ECEQ® コーディネーター）

※全体会の詳細は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』を参照

STEP4.5

メイン ECEQ[®] コーディネーターは、常に STEP1 からの内容を頭に入れておき、STEP5 に向けての計画を組み立てながら STEP4 に臨むことが大切です。STEP4 が終了したら、実施園のトップリーダーから再度ヒアリングを行い、STEP5 の方向性を確認します。実施園の保育者からアンケート※をとったり、サブ ECEQ[®] コーディネーターからのフィードバックを得ることも、STEP5 を計画する際に重要な手掛かりになります。

実施園のトップリーダーと確認検討する事項

- ☐ STEP4 を終えたトップリーダーの心持ち
- ☐ STEP4 で園、保育者、ECEQ[®] コーディネーターに対して気づいたこと
- ☐ STEP4 までを終えて、トップリーダーが STEP5 に期待したいことは何か
- ☐ STEP5 の計画案についての意見交換

実施園の保育者へのアンケート例

- ☐ STEP4 を終えた保育者の心持ち
- ☐ STEP4 で園、保育者、ECEQ[®] コーディネーターに対して気づいたこと
- ☐ STEP4 で学んだこと
- ☐ STEP4 で困ったこと、わからなかったこと、難しかったこと
- ☐ STEP5 で話したいこと

ECEQ[®] コーディネーター同士のフィードバック

- ☐ STEP4 までで園、保育者、ECEQ[®] コーディネーターに対して気づいたこと
- ☐ ECEQ[®] コーディネーターから見た実施園の良さや課題
- ☐ STEP5 の計画案についての意見交換

※実施園アンケートは『ECEQ[®] コーディネーターマニュアル』を参照

まとめ

ECEQ®の核、STEP4 公開保育

☐ STEP4 公開保育とは？

外部から見た実施園の現在位置を明らかにするためのプロセス

☐ STEP 4公開保育の目的は？

参加者からのフィードバックにより、実施園の保育者等が自園の良さや課題に新たに気づいたり、再認識したりする

☐ 分科会ファシリテーターとは？

公開保育の分科会で進行役を務める人。ECEQ® コーディネーターが務める場合が多いが、必ずしも ECEQ® コーディネーターでなければならないことはない

☐ メイン ECEQ® コーディネーターの分科会の役割は？

分科会には入らず、分科会全体をコーディネートすること

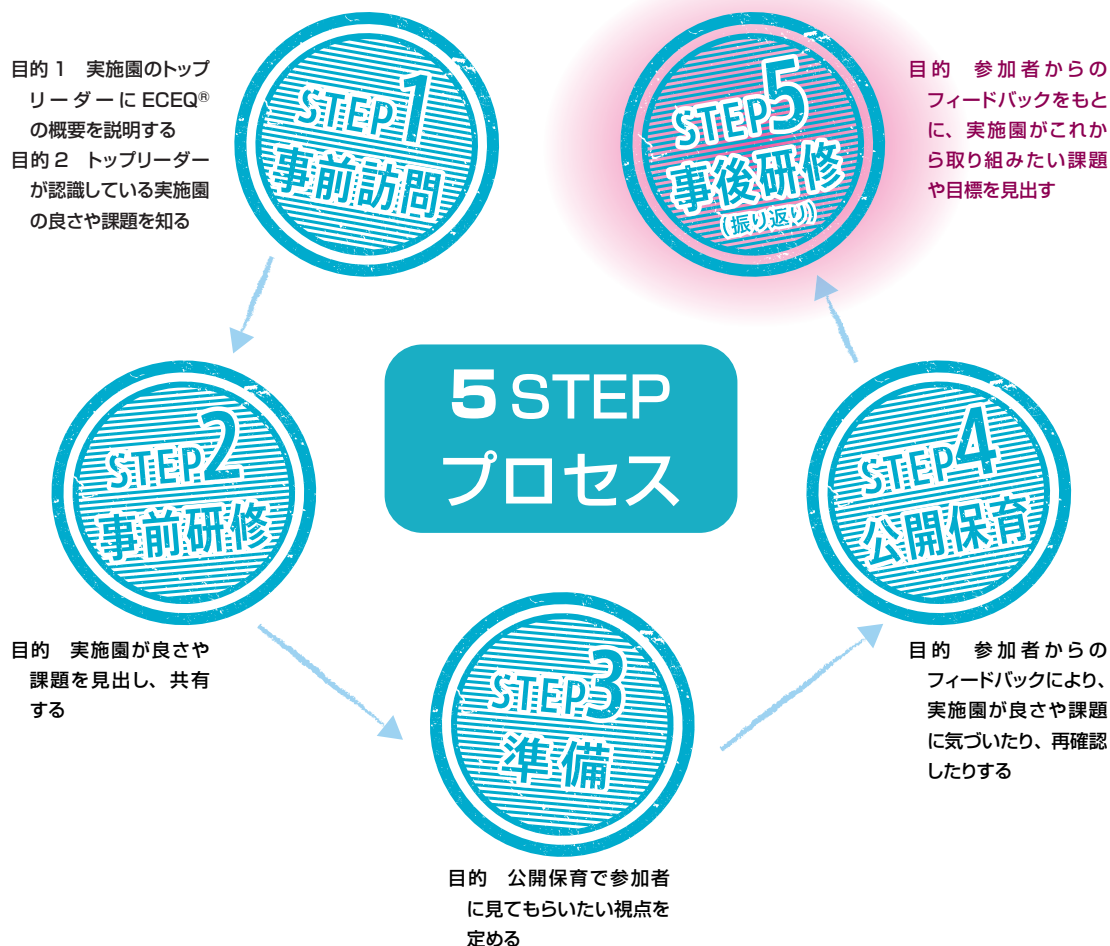
☐ 全体会の留意点は？

各分科会でのフィードバック内容を参加者全員と共有すること

ステップ 3-8 STEP5 事後研修とは

公開保育を振り返る、明日へのたいせつな STEP

STEP4 公開保育をやりっぱなしにしない ECEQ® の良いところである STEP5 事後研修は、公開保育で得たフィードバックを振り返り、実施園があらためて自園の良さや課題を知り、ECEQ® 後の園の質向上につなげるための重要な STEP です。実は ECEQ® 5STEP のなかで、もっとも ECEQ® コーディネーターの力量が試される場となります。なぜなら、公開保育で思ったようなフィードバックが得られなかったとしても、STEP4.5 で聞いたトップリーダーの意向や STEP4 公開保育後の実施園アンケートをもとに STEP5 のやり方を考え、実施園がこれから取り組みたい課題や目標を見出し、ECEQ® 後も実施園自らが主体的に質向上に取り組み続けるための「足場づくり」をする機会であるからです。『ECEQ® コーディネーターマニュアル』では課題を見つけ出す振り返りワークの例も複数あげています。実施園と相談してどのようなねらいでどのようなワークをするかを決めます。ここまで培った実施園との信頼関係があるからこそ、実施園に寄り添った充実した時間が得られる、ECEQ® コーディネーターとしても「やってよかった」と思える STEP5 にしましょう。



(1) STEP 5の目的・目標

目的

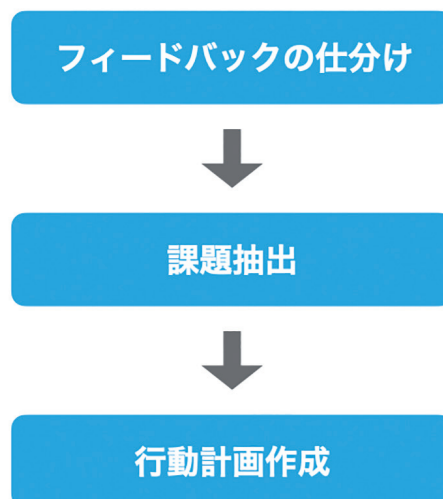
- ・STEP 4公開保育で得たフィードバックをもとに、これから取り組みたい課題や目標を見出し、ECEQ®後も自園の質を主体的に向上させていける道筋を見つける

目標

- ・STEP 4公開保育で知った自園の良さや課題を園全体で共有する
- ・共有した良さや課題から新たな課題を見出す
- ・実施園がECEQ®後も主体的に課題に取り組めるような具体的な方法を知る

STEP5はSTEP4で参加者からもらったフィードバックを整理して、あらためて自園の目指す方向性や課題を見出し、質向上に取り組むための行動計画まで見通すことができればベストです。ECEQ®コーディネーターが実施園で園内研修を行うことが基本ですが、地区によっては距離や時間の制限によって実施園だけで園内研修をすることもあります。その場合も、ECEQ®コーディネーターは研修内容に責任をもって関わり支援していきます。

図表 3-11 : STEP5 の流れ



(2) STEP5 の実際…事後研修内容

STEP4 のあと、実施園トップリーダーと ECEQ[®] コーディネーターチームで確認した STEP5 の計画内容で、公開保育を振り返ります。ここまで来れば、ECEQ[®] コーディネーターと実施園の保育者は、まるで同じチームの一員であるような親密感も生まれているかもしれません。しかし、油断は禁物です。ECEQ[®] コーディネーターは実施園に対して、最後まで敬意をもって接し、実施園がまんなかであることを忘れずに、支援役に徹する立ち位置を見失ってはいけません。良かれと思って指導したり操作的にふるまったりすることがないように留意しましょう。STEP5 では、実施園の保育者等が ECEQ[®] 終了後も、主体的に目指す方向性を定めたり課題に向き合えるような、具体的な園内研修の方法を伝えておくことが重要です。

置いて帰るのは、「魚」ではなく「釣り方」

これまでの STEP を通して実施園に愛着が湧き、課題が見えてきた ECEQ[®] コーディネーターは、しばしば「あなたがたの問題はこのようなことで、その答えはこうなんです」と善意から教えたくなる欲望が持ち上がってすることがあります。しかし、それでは実施園が自ら課題に取り組んだことになりません。ECEQ[®] の目的のひとつは「園として学校評価を持続的に実施し、教育の質を向上し続けていくための組織風土をつくりあげていくこと」です。魚を欲しがる人に魚を与えるのではなく釣り方を教える、という例があるように「その問題は、このようなフレームワークで解けるかも」と、実施園の保育者に「釣り方」を提案するのです。STEP5 で ECEQ[®] コーディネーターがすることは、「釣り竿やエサの使い方」を一緒に試してみること。ECEQ[®] コーディネーターは、そのときの実施園のプロセスをよく観察し、保育者が課題に対して主体的に取り組めるように支援します。ECEQ[®] コーディネーターは実施園にずっと関われるわけではありません。実施園には ECEQ[®] 後も新たな課題は生まれ続けます。今の課題の答えを教えられ納得したとしても、新しい課題に対応できなくなるかもしれません。STEP5 は、答えを見つける場ではなく、解き方を体験する場です。そのことを ECEQ[®] コーディネーターは肝に銘じておきましょう。

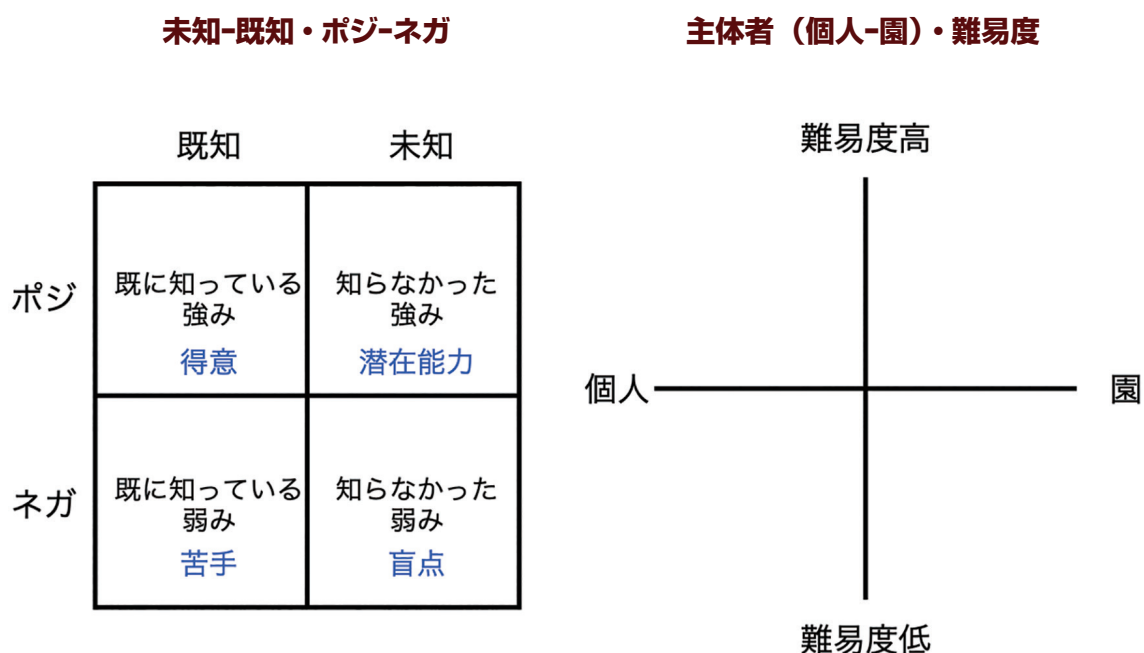
(3) フィードバックを整理する振り返りワーク

STEP4 公開保育で参加者から得たフィードバックを精査して、これから取り組みたい課題や目標を見出していくことがSTEP5の標準的なやり方です。フィードバックされた付箋を直接用いる方法と、STEP4 公開保育を振り返りながら新たな気づき等を書き起こして仕分ける方法があります。

フィードバックされた付箋を直接マトリクスで仕分ける

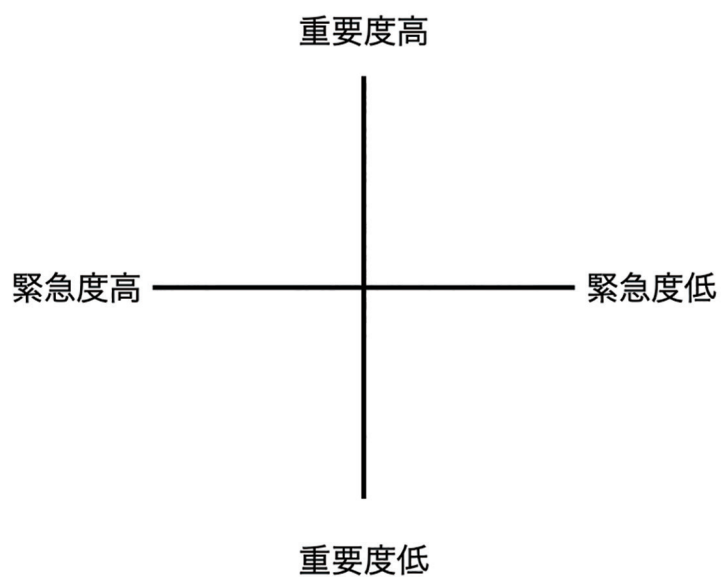
フィードバックが書かれた付箋や分科会で話されたことの記録をあらためて読み、以下のような軸で仕分けて、今後の課題の取り組み方を考える方法です。付箋を直接用いる方法は手軽にできる反面、課題の抽出が抽象的になりがちです。仕分けた後に、さらに付箋に書かれている内容を精査する問いかけが必要となります。

図表 3-12：付箋の仕分け方例

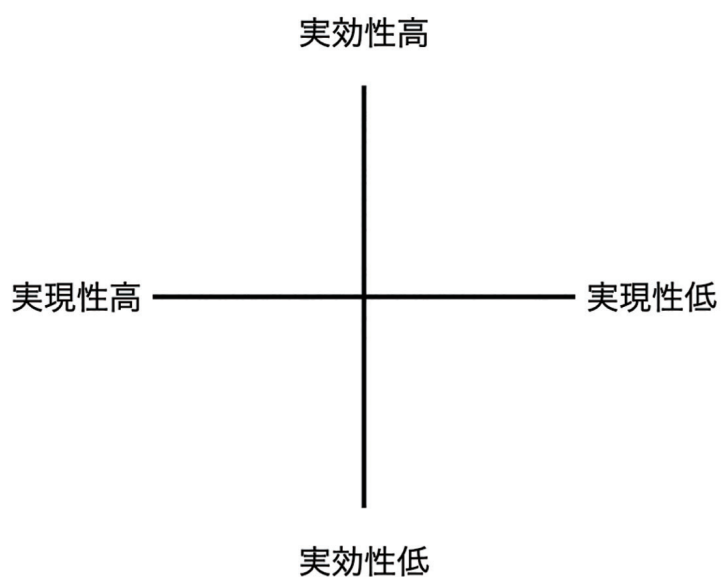


付箋をポジティブなフィードバックとネガティブなフィードバックに分け、それぞれ知っていたこと、知らなかったことに分ける。

付箋を個人で取り組む課題か、園で取り組む課題かに分ける。中心部分に、チームで取り組む課題の付箋を置く。それを難易度の高低で分ける。

重要度・緊急度

付箋を重要度と緊急度の高低に分ける。

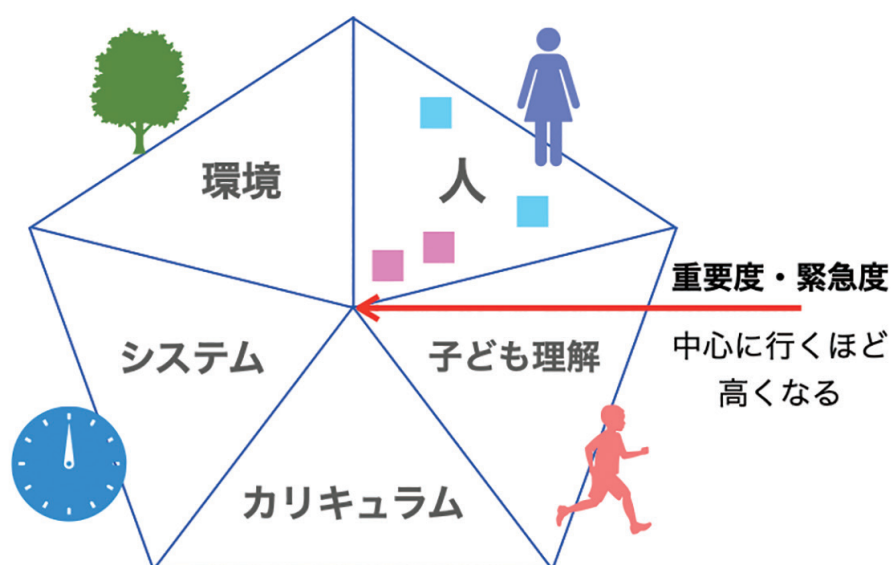
実効性・実現性

付箋を実効性と実現性の高低に分ける。

5要素分類

STEP 4公開保育でもらうフィードバックは、おおむね「人」「環境」「子ども理解」「システム」「カリキュラム」の5つの要素に分けることができます。まずはこの5要素に付箋を分けて実施園の今を俯瞰し、それぞれの中でさらに重要度や緊急度を測って取り組む課題の優先順位を決めたり、強みや弱みを知っていったりすることができます。こうして客観的に分析してみることで、新たな課題が見つかったり自園やチームへの理解が深まったりします。普段行っている自己評価が形骸化していたり、あまり気づきがなかった園にとっての「はじめの一步」を踏み出すワークとしては適しているといえるでしょう。

図表 3-13：フィードバックの5要素



何についてか	重要度高い	重要度低い
人（保育者）		
環境		
子ども理解		
システム		
カリキュラム		

「重要度」は、「緊急度」や「関心度」、「園長・リーダー・現場」などさまざまな項目に置き換え可能です。これらの表や図に決まりはありませんので、自由な発想で実施園にあった項目を立ててみるのが大切です。

(4) STEP5 をどのように終えるか

STEP1 から始まった ECEQ[®] の長かった旅もこれで終着です。STEP5 の最後には、ECEQ[®] コーディネーターは実施園の保育者に ECEQ[®] の全ての STEP が完了することをあいさつで述べ、最後までやり遂げた事に対して心からの敬意を示しましょう。また実施園のトップリーダーには、「実施園記録」の書き方(第4章参照)をお伝えし、その後メイン ECEQ[®] コーディネーターが「ECEQ[®] コーディネーター報告書」を作成・提出し、すべてが完了すると全日本私立幼稚園幼児教育研究機構から「ECEQ[®] 実施認定証」が送られてくることを説明します。実施園の保育者たちの表情はいかがでしょうか。STEP2 で初めて出会った頃から変容が見られるでしょうか。ECEQ[®] コーディネーターチームは、今回の ECEQ[®] の振り返りをすることも大切です。

図表 3-14：STEP5 後の流れチャート

STEP5 が終わったら

STEP5 後の流れ

- ▼
「実施園記録」を作成（実施園）し、ECEQ[®] コーディネーターに送付
- ▼
「ECEQ[®] コーディネーター報告書」を作成（メイン ECEQ[®] コーディネーター）し、実施園に送付し確認を得る
- ▼
「実施園記録」と「ECEQ[®] コーディネーター報告書」の両方の原本を実施園が都道府県私立幼稚園団体に送付
- ▼
都道府県私立幼稚園団体は、「実施園記録」と「ECEQ[®] コーディネーター報告書」をデータで全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に送付し、原本は保管しておく
- ▼
全日本私立幼稚園幼児教育研究機構がデータを受理し、「ECEQ[®] 実施認定証」を発行
- ▼
「ECEQ[®] 実施認定証」が実施園に届いて完了

まとめ

公開保育を振り返る、明日へのたいせつな STEP

☐ STEP5 とは？

ECEQ® 後の園の質向上につなげるための重要な STEP

STEP 4公開保育で得たフィードバックをワークを通して振り返る

☐ STEP5 の目的は？

ECEQ® 後に取り組みたい課題や目標を見出し、自園の質を主体的に向上させて
いける道筋を見つける

☐ STEP5 で ECEQ® コーディネーターが心がけることは？

答えを与える場ではなく、解き方を体験する場。園が主体的に目指す方向性を
定めたり、課題に向き合えたりするような手立てやワークを提案し支援する

☐ STEP5 のゴールは？

実施園が ECEQ® 後も主体的に課題に取り組めるような道筋をつける

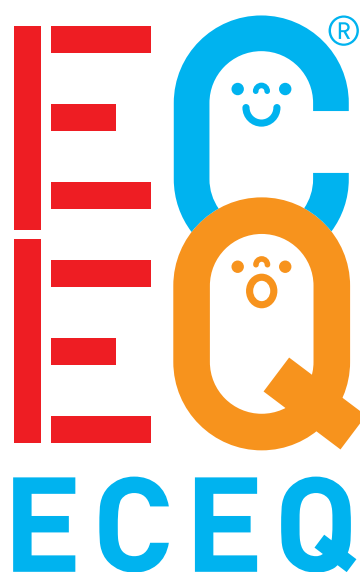
ECEQ[®] コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ[®] Coordinator TextBook & Manual

第4章 実施園記録と

ECEQ[®] コーディネーター報告書

4-1 実施園記録と ECEQ [®] コーディネーター報告書	86
4-2 実施園記録	87
4-3 ECEQ [®] コーディネーター報告書	89
4-4 ECEQ [®] の完了	91



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

4-1 実施園記録と ECEQ® コーディネーター報告書

記録から始まる、新たな旅

STEP5までが ECEQ® の核心である ECEQ® コーディネーターのナビゲートによる実施園にとっての研修段階。全STEPが完了したらECEQ® 全体を実施園とECEQ® コーディネーターが双方で記録します。実施園は5STEPを振り返って「実施園記録」を作成し、ECEQ® コーディネーターは実施園記録を参照して「ECEQ® コーディネーター報告書」を作成します。作成した「実施園記録」と「ECEQ® コーディネーター報告書」を都道府県私立幼稚園団体経由で全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に提出し、認証されれば「ECEQ® 実施認定証」が実施園に発行されます。これをもって ECEQ® の全段階が完了することとなり、実施園は新たな幼児教育の質向上の旅に向かうのです。実施園記録や ECEQ® コーディネーター報告書は、「ECEQ® 実施認定証」を申請したり施設関係者評価加算を申請したりする根拠となる大切な書類となりますので、期日や書式を守り丁寧かつ簡潔に仕上げましょう。

図表 4-1：実施園記録

ECEQ® 実施園記録	
主簿	
令和 年度	ECEQ® 実施園記録
作成日 年 月 日	
作成者	
基礎情報内容	実施園情報
法人名	
理事長名	
園名	
園長名	
担当者名	
住所	
電話番号	
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	
学級数と人数	
教職員数	
メインコーディネーター名	
サブコーディネーター名	
各 STEP の実施履歴	STEP 1 年 月 日 () : ~ : STEP 2 年 月 日 () : ~ : STEP 3 年 月 日 () : ~ : STEP 4 年 月 日 () : ~ : STEP 5 年 月 日 () : ~ :

図表 4-2：ECEQ® コーディネーター報告書

ECEQ® コーディネーター報告書	
主簿	
令和 年度	ECEQ® コーディネーター報告書
作成日 年 月 日	
作成者	
実施園園長確認署名	
基礎情報内容	実施園情報
法人名	
理事長名	
園名	
園長名	
担当者名	
住所	
電話番号	
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	
学級と人数	
教職員数	
メインコーディネーター名	氏名 co-No.
サブコーディネーター名	氏名 co-No.
各 STEP 実施履歴	STEP 1 年 月 日 () : ~ : STEP 2 年 月 日 () : ~ : STEP 3 年 月 日 () : ~ : STEP 4 年 月 日 () : ~ : STEP 5 年 月 日 () : ~ :

4-2 実施園記録

実施園による実施園のための振り返り記録

実施園記録の目的・目標

目的

- ・実施園が ECEQ® 全体を振り返り自園の「研修記録」として作成する
- ・ECEQ® 完了を第三者に証明する記録となるように作成する

目標

- ・実施園自身の振り返り記録となるよう、各 STEP ごとに記載する
- ・公的書類として通用する記録を作成する

ECEQ® コーディネーターは実施園が研修記録として保存できるように、「実施園記録」の書式を実施園に示し書き方を伝えます。実施園記録の書式は、実施園が各 STEP の振り返りを端的に記入できる様式になっていますので、ECEQ® コーディネーターは内容が書式に沿って書かれているかを確認します。留意点としては、実施園記録には各 STEP の実施写真を必ず掲載することです。ECEQ® コーディネーターや実施園がこれまで撮影してきた各 STEP の写真を使います。内容について ECEQ® コーディネーターは、書式に沿って書いてあれば実施園のありのままの記録を尊重し、確認するのは誤字脱字程度でよいでしょう。ここでも非評価・非操作で支援し、教授的な関わりにならないように留意します。

図表 4-3：実施園記録書式

ECEQ [®] 実施園記録	
STEP1 事前訪問 (トップリーダー・ヒアリング)	
実施園参加者	
コーディネーター	
実施日時	
場所	
確認した自園の良さ・・・	
確認した自園の課題・・・	

ECEQ [®] 実施園記録	
STEP2 事前研修 (現場の先生方との園内研修)	
実施園参加者	
コーディネーター	
実施日時	
場所	
確認した自園の良さ・・・	
確認した自園の課題・・・	
実施風景や成果物など (画像)	

ECEQ [®] 実施園記録	
STEP3 「問い」づくり (現場の先生方との園内研修)	
実施園参加者	
コーディネーター	
実施日時	
要した日数	
「問い」づくりで気づいたこと、感じたこと、思ったこと	
完成した「問い」	

ECEQ [®] 実施園記録	
STEP4 公開保育	
実施園参加者	
コーディネーター	
実施日時	
分科会数と各参加者数	
参加人数	
当日のスケジュール	
STEP4 で気づいたこと、感じたこと、思ったこと	
STEP4 の様子 (画像)	

ECEQ [®] 実施園記録	
STEP5 事後研修	
実施園参加者	
コーディネーター	
実施日時	
分科会数と各参加者数	
参加人数	
当日のスケジュール	
STEP5 で気づいたこと、感じたこと、思ったこと	
STEP5 の様子 (画像)	

ECEQ [®] 実施園記録	
ECEQ [®] 全体を通して気づいたこと、感じたこと、学んだこと	

4-3 ^{イーセック}ECEQ® コーディネーター報告書

^{イーセック}ECEQ® コーディネーターから実施園へのラブレター

ECEQ® コーディネーター報告書の目的・目標

目的

- ・メイン ECEQ® コーディネーターがコーディネートした ECEQ® の全過程を、
全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に報告するために作成する

目標

- ・実施園の ECEQ® の成果を ECEQ® コーディネーターの視点で記録し報告する
- ・実施園が ECEQ® 後も主体的に自園で質向上に取り組む意欲につながるような
書き方とする

ECEQ® コーディネーター報告書は所定の書式に沿って、原則メイン ECEQ® コーディネーターが作成します。量は表紙を除いて A4 サイズ 2 枚がベスト。多くとも 3 枚までに収めましょう。作成にあたっては、文字量ではなく書かれている内容の質を求めます。ECEQ® の各 STEP を振り返り、実施園がそれぞれの STEP で、どのような成果を得られたかを ECEQ® コーディネーターの視点でフィードバックを端的に記録します。写真は必要ありません。作成に際して最も力点を置く項目は「まとめ」です。実施園が ECEQ® を通してどのような成果を得たと理解したかを ECEQ® コーディネーターの視点で、評価者ではなくニュートラルな報告者であることに留意して心を込めて書きましょう。また、報告書はまずサブ ECEQ® コーディネーターにチェックしてもらい全員の了承が得られたら実施園に提出します。実施園のトップリーダーなどに読んでもらい、内容に過不足や正誤がないか確認していただき了承が得られたら、園長印を押した原本を実施園記録とセットで都道府県私立幼稚園団体に提出してもらいます。これで ECEQ® コーディネーターの仕事は完了となります。

図表 4-4：ECEQ® コーディネーター報告書書式

ECEQ® コーディネーター報告書				
令和 年度		主催 ECEQ® コーディネーター報告書		
		作成日 年 月 日		
		作成者		
		実施園園長確認署名		
基礎情報内容		実施園情報		
法人名				
理事長名				
園名				
園長名				
担当者名				
住所				
電話番号				
FAX 番号				
メールアドレス				
園児数				
学級と人数				
教職員数				
メインコーディネーター名	氏名	co-No.		
サブコーディネーター名	氏名	co-No.	氏名	co-No.
各 STEP 実施履歴	STEP 1	年	月	日 () : ~ :
	STEP 2	年	月	日 () : ~ :
	STEP 3	年	月	日 () : ~ :
	STEP 4	年	月	日 () : ~ :
	STEP 5	年	月	日 () : ~ :

ECEQ® コーディネーター報告書	
各STEPを通して	
1. STEP1やSTEP2で抽出された自覚的な良さや課題	
2. STEP4で示された課題（「問い」）	
3. STEP4の参加者からのフィードバックで得た良さや課題	
4. STEPSにおいて整理された良さや課題並びに課題解決の方策	
5. まとめ	

4-4 イーセック ECEQ[®] の完了

イーセック ECEQ[®] を終えて、 イーセック 実施園と ECEQ[®] コーディネーターが得るもの

「実施園記録」と「ECEQ[®] コーディネーター報告書」が全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に受理され、実施園に「ECEQ[®] 実施認定証」が届くと、長かった ECEQ[®] の旅も終着点に着いたことになります。ECEQ[®] コーディネーターのあなたにとって今回の旅はいかがだったでしょうか。スリルに満ちた冒険？ わくわくのファンタジー？ それとも心が揺さぶられるヒューマンドラマ？ 心配性のあなたは、この期に及んで実施園のことが気がかりではないかと思っていますでしょうか。しかし、ECEQ[®] で ECEQ[®] コーディネーターができることはここまでです。ここから先は、実施園が主体的に「一人旅」に旅立たなければなりません。ECEQ[®] コーディネーターは、実施園が一人旅に出られるまでをナビゲートすることが使命です。園が主体的に、自園の幼児教育の質向上に向かって歩むことができるように支援するのが ECEQ[®] コーディネーターが目指すゴールです。実施園の究極の目標は、ECEQ[®] での経験を生かして幼児教育の質向上につながる園内研修を実施園自身で企画実施できるようになることです。

ECEQ[®] の各 STEP は、すべて園内研修といえます。ECEQ[®] コーディネーターは、そのやり方のモデルを示し、実施園に体験してもらいました。人は、体験したことは身につくと言われます。それでもまだ疑問や質問が実施園に湧いたら、いつでも尋ねられるような持続的な関係性を持つかどうかは ECEQ[®] コーディネーター自身が決めてください。実施園が「やってよかった」と思える ECEQ[®] だったなら、あなたは自分自身の ECEQ[®] コーディネート力に自信を持ってください。そして、ご自身の ECEQ[®] を振り返り、次回に備えましょう。

そうして場を重ねることで、自園にもその成果を還元することができ、自園の幼児教育の質向上にもきっと役立てることができると思います。ECEQ[®] コーディネーターは利他の心で実施園に関わることで、その利他が循環してあなたにも、自園にも、成果が還ってくるのです。これからもよい旅を！



まとめ

記録から始まる、新たな旅

☐ 記録するものとは？

STEP5 を終えたら、実施園は「実施園記録」を、メイン ECEQ[®] コーディネーターは「ECEQ[®] コーディネーター報告書」を作成する

☐ 記録の目的は？

実施園は ECEQ[®] の振り返りの記録として、ECEQ[®] コーディネーターは実施園へのフィードバックとして作成する

☐ 実施園記録で ECEQ[®] コーディネーターが心がけることは？

ECEQ[®] コーディネーターは、「実施園記録」を非評価・非操作で確認する

☐ ECEQ[®] コーディネーター報告書で ECEQ[®] コーディネーターが

心がけることは？

実施園が ECEQ[®] 後も主体的に自園での幼児教育の質向上に取り組む意欲につながるような書き方にする

令和5年3月

◆（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

令和4年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業
幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究実行委員会

安家 周一	大 阪・あけぼの幼稚園
宮下友美恵	静 岡・静岡豊田幼稚園
加藤 篤彦	東 京・武蔵野東第一・第二幼稚園
岡本 潤子	青 森・千葉幼稚園
秦 賢志	兵 庫・はまようちえん
藪 淳一	北海道・大通幼稚園
櫛渕 洋介	群 馬・ちぐさこども園
永田 陽子	東 京・大和郷幼稚園
櫻井 喜宣	神奈川・さくらい幼稚園
波岡 千穂	富 山・堀川幼稚園
杉本 圭隆	大 阪・むつみ幼稚園
永宗 智子	岡 山・敬愛幼稚園
廣瀬三枝子	香 川・香川短期大学附属幼稚園
興水 基	鹿児島・阿久根めぐみこども園

本テキストブックは、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した、令和4年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業の成果を取りまとめたものです。

本テキストブックの複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。